

## 第3編 学 校 別 研 究

### 【 目 次 】

沼 田 小 学 校 .....	4 9
沼 田 東 小 学 校 .....	5 3
沼 田 北 小 学 校 .....	5 7
升 形 小 学 校 .....	6 1
利 南 東 小 学 校 .....	6 5
池 田 小 学 校 .....	6 9
薄 根 小 学 校 .....	7 3
川 田 小 学 校 .....	7 7
白 沢 小 学 校 .....	8 1
利 根 小 学 校 .....	8 5
多 那 小 学 校 .....	8 9
沼 田 中 学 校 .....	9 3
沼 田 南 中 学 校 .....	9 7
沼 田 西 中 学 校 .....	1 0 1
沼 田 東 中 学 校 .....	1 0 5
池 田 中 学 校 .....	1 0 9
薄 根 中 学 校 .....	1 1 3
白 沢 中 学 校 .....	1 1 7
利 根 中 学 校 .....	1 2 1
多 那 中 学 校 .....	1 2 5
利 南 幼 稚 園 .....	1 2 9
薄 根 幼 稚 園 .....	1 3 3

# 沼田小学校

所在地 〒378-0042 沼田市西倉内町746番地  
電話番号 0278-22-2063 FAX 22-0780  
校長名 荒木富美子

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

#### 「知」よく学ぶ子

基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用して問題を解決する能力を育成する。

#### 「徳」助け合う子

自己肯定感や他者への思いを深めさせ、道徳的実践力を育成する。

#### 「体」元気な子

健康・安全の知識・技能を習得させ、自ら実生活に活かす能力・態度を育成する。

### 2 経営方針

◎「生き生きと取り組む子」を目指して教育課を重点化し、解決に向けて全職員で組織的に取り組む

○生き生きと取り組む子の素地創り「特別支援教育・積極的な生徒指導（教科担任制）・学活の充実」

○感染症対策の徹底と学習の幅を広げる工夫

○主体的に取り組む、共に学び合う子の育成に向けた「小算研授業公開」「ICT活用促進プロジェクト」を効果的に活用した授業改善

○健康な心と体で子どもと向き合うための業務改善

### 3 本年度の重点施策

#### (1) チーム沼小の強化

①毎週月曜の企画会議（校長・教頭・教務）で情報収集、調整を行い、全職員で共通理解のもと進められるベースを作る。

②知徳体の部会をベースにした「学校評価委員会」での協議を通して、学校課題を重点化し、課題解決に向けて取り組むとともに、各主任の主体性を大切にし、思いを生かして組織的に取り組めるよう、合意形成を大切にする。

③すべての子どもが生き生きと学校生活を送れるように、特別支援COを中心に全教職員が組織的に特別支援教育を推進する。

#### (2) 確かな学力の育成【沼田市・先生の日】

①始業前の学習準備の習慣化やチャイム始業・終業を大切にし、学びに向かう態度を育成する。

②「小算研授業公開」「ICT活用促進プロジェクト」を目標に「はばプラⅡ ICT活用 Version」を活用した「沼小スタンダード」を推進する。

③全ての児童の可能性を引き出す授業の実践（個別最適な学びと協働的な学び）に視点を当て、ICTの効果的な活動を検討していく。【振り返り学習】

#### (3) 豊かな心の育成【沼田大好き、ふるさと学習】

①生活五原則「挨拶、返事、ありがとう、無言・自問清掃、時を考える」を励行した生活指導を徹底する。

②道徳教育の充実と人権教育の実践、信頼関係を基盤にした生徒指導の推進によって「自己有用感」を育成する。

③信頼関係を基盤にした温かな生徒指導と分かる授業により「自己肯定感」を高める。

④総合的な学習の時間や生活科を中心に地域と連携・協力した「沼田大好きふるさと学習」を推進する。

#### (4) 健康な心身の育成【セイフティ沼田】

①感染症予防等、自分の身を自分で守るための学校保健、食育、安全教育を推進する。

②免疫力を高めるために、食事・睡眠・運動を適切に行えるよう、学校保健委員会を中心に啓発し、家庭とも連携して実践できるようにする。

③体力向上プランに基づき、体育の授業と業前・業間の運動を充実させる。

#### (5) 家庭・地域・隣接学校との連携・協力【幼小中連携】

①たよりやWebページにより、家庭や地域への情報発信を充実させる。

②「学校支援センター」の機能を生かした学習ボランティアとの連携を推進する。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～  
主題 主体的に取り組み、共に学び合う子の育成  
副主題 ～算数科と学級活動を中心としたICTの効果的な活用を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・粘り強く、自己調整しながら学習に取り組む点は、まだ十分ではない。
- ・自分の考えを表現する場面では、説明が不十分であったり、発言が限られた子に偏ったりと課題がある。
- ・他者の様々な見方や考え方に触れて、よさを取り入れたり、比べて考えたりする姿はあるが、よりよい解決方法を焦点化できず、思考の深まりという点で課題がある。

#### 指導の在り方との関わり

- ・自分の考えを分かりやすく表現して伝えられるような指導を充実させる必要がある。
- ・ICT(1人1台端末等)を活用することで、一人一人に自分の考えを表現できる機会を与え、「見方・考え方」を働かせながら課題を解決していく力を高めていく必要がある。
- ・ICTを活用することで分かりやすく説明し、学級全体で考えを深めていける指導の方法をさらに工夫していく必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【高学年】 自分の考えを分かりやすく伝え合い、学んだことを生かして考えを深める児童
- 【中学年】 自分の考えを伝え合い、比べながら粘り強く考える児童
- 【低学年】 自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、興味・関心をもって学びに向かう児童
- 【特別支援】 状況に応じて自分の気持ちや考えを分かりやすく友達や先生に伝える児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ◆ 「はばプラⅡ」に基づいた「沼小スタンダード」の実践を継続するとともに、「はばプラⅡICT活用Version」を参考にした授業づくりをする。
  - ① 【学習の見通しをもたせ、主体的な学びを生み出す、単元・授業デザイン】
    - ・単元および題材の課題の解決に向けて、追究意欲や学習内容をつなげる授業づくりをする。
    - ・めあて、見通し、まとめ、振り返りの単位時間の流れ「沼小スタンダード」を徹底する。
  - ② 【深まりを生む対話的な学びの工夫】
    - ・追究する場面において、じっくり考える場の設定と共に、分かりやすく表現し、伝え合える工夫をし、「見方・考え方」を働かせながら比較・検討し、考えを深めさせる。
  - ③ 【ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び】
    - ・効果的な場面での活用を試行し、使うことが目的化することのないようにする。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・「沼小スタンダード」の実践を全職員で継続することにより、どの授業においても学習の流れを見通して主体的に課題解決に向かう姿が見られ、高学年の教科担当制においても有効である。
- ・模擬授業形式、プレ授業を取り入れた授業検討会を行うことにより、授業の課題の発見や深め方の検討がし易く、授業者のみならず、全員の授業改善に繋げることができた。
- ・ICTを活用して表現する、他者の考えを共有して比較する、それを基にして思考を深めていくなど、積極的に活用することにより、ICTを活用した学びのよさを実感し、目指す児童像に近づくことができた。

#### ○課題

- ・他者の考えを理解し、自分の考えを深化させていく点で課題が残る。問い返しやリレー説明、クロス説明等を取り入れるなど、さらに深まりを生む対話活動の工夫が必要である。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・各部会や日々の実践の成果と課題を共有しながら、ICTのよさを生かした効果的な指導、支援を位置づけた「沼小スタンダード」の実践を今後も積み重ねていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 18	【全体会①】 ・研修計画の検討	○主題、副主題、研修組織、研修計画、目指す児童像の検討。 ・昨年度の成果と課題、児童の実態等を踏まえ、今年度の方向性を確認。
5. 23	【全体会②】 ・研修内容、手立て ・ICT研修	○沼小スタンダードの共通理解、Chromebookの効果的な使い方。 ・1単位時間の基本的な流れを全員で確認。 ・Classroom、ロイロノートアンケート機能の活用方法の確認。
5. 26	自立活動 「吃音の正しい理解」 授庭野教諭	○自己の状態を受け入れる活動場面でのICTの活用方法。 ・個別の指導に対し、ロイロノートを活用の有効性を確認。
6. 7	授指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認、改善。 ・見方・考え方を働かせる手立て、ICTの生かし方の確認。
6. 10	5年算数 「小数のわり算」 授町田教諭	指検討会(高学年6.8)→兵藤教諭プレ授業(6.9)→授業(全員)→授業研究会(全員) ○ICTを活用した算数での、沼小スタンダードの実践と検討。 ・算数でのICTを活用した沼小スタンダード、一斉の見取り、意図的指名、リレー説明、クロス説明の方法について共有。
6. 13	【全体会③】 ・ICTの効果的な活用	○群大附属小公開授業動画視聴を行い、ICTの効果的な活用方法を確認。 ・目的意識をもち、ICTを効果的な場面で活用することの必要性を確認。
6. 24	2年学活 「はみがき名人になろう」 授関谷教諭	指検討会I(低学年6.16)→検討会II(低学年6.21)→授業(全員)→授業研究会(全員)→武井教諭授業(7.1) ○学級活動(2)における効果的なICT活用実践と検討。 ・ロイロノートでのアンケート機能の活用、画像、動画提示、意思表示の全体共有の有効性という効果的なICT活用について確認。
8. 22	県小算研・ICT推進授業検討会(指導主事要請) 1年算数「ひきざん」 指戸部教諭(低学年部会) 6年算数「比例と反比例」 指今井教諭(高学年部会)	○単元構想、本時の流れ、ICT活用について。 ・授業内容の検討と決定、ICTを活用したブロック操作と説明方法、振り返りの仕方を検討。 ・授業の流れ、ロイロノートを活用した自力解決方法、集団解決方法、振り返りの仕方、板書計画を検討。
8. 23	4年学活「いじめのないクラスにする楽しい集いをしよう」 指倉澤教諭(中学年部会)	・議題、話し合いの必要性、ICTの効果的な活用(アンケート、最終的な決定事項の提示)、折り合いのつけ方について検討。
9. 5	【全体会④・部会検討会】 1年算数「ひきざん」 指戸部教諭(低学年部会) 6年算数「比例と反比例」 指今井教諭(高学年部会) 3年学活「3年生として運動会をがんばろう」 指河野教諭(中学年部会)	○授業者の思いを確認し、研修のねらいを達成するための手立てを検討。 ・本時の流れ、ICTを活用した資料の提示、ブロック操作、説明、類似問題による振り返りを検討、確認。 ・導入方法、ICTを活用した自力解決、ペア学習、集団解決、振り返りの検討、確認。 ・議題、話し合うこと、ICTの活用方法(アンケート機能、提案理由提示、テキストマイニング)、板書計画を検討。
9. 26	【全体会⑤】 ・B訪問検討(模擬授業) 3年学活 「3年生として運動会をがんばろう」 指河野教諭	指検討会II(中学年9.9)→検討会III(全体会9.26)→検討会IV(中学年9.30)→各学年でB訪問プレ授業 ○学級活動(1)における合意形成とその実現に向けた取り組みに向けた効果的なICT活用の確認。 ・話し合いの流れ、議題と話し合うことの整合性、ICTの活用方法(アンケート機能、決定事項の提示、テキストマイニング、振り返り)、折り合いのつけ方の検討、板書計画を確認。
10. 7	県小算研検討(模擬授業) 1年算数「ひきざん」 指戸部教諭(全員で参加)	○授業者の思いを確認し、研修のねらいを達成するための手立てを検討。 ・ロイロノートを活用したブロック操作のメリットの生かし方を確認。 ・ICT活用とノート指導、板書の効果的な兼ね合いを検討。
10. 11	・指導主事訪問B 3年学活 「3年生として運動会をがんばろう」 授河野教諭	○アンケート機能とテキストマイニングは、よりよい合意形成に有効か。 ・アンケート機能が意図的指名や全員の意思決定に有効であった。 ・テキストマイニングにより、不安なことが確認でき、係を決めることの必要性を感じながら集団決定をすることができた。
10. 31	【全体会⑥】 B訪問指導事項 全体会→各部会	○B訪問での指導事項を確認し、今後の授業に繋げていく。 ・ペアでの意見交換が自信をもって発言する上で有効であった。 ・情報の整理、比較、実態把握でのICTの活用が有効であった。
11. 2	6年算数「比例と反比例」 授後藤教諭(高学年部会) *県小算研プレ授業	指検討会(高学年10.31)→授業(高学年)→授業研究会(高学年) ○ICT活用が考えを伝え、考えを深めるために有効であったか。 ・考え方の違いに応じた色分けでの提出が有効であった。 ・途中までの考えをリレー説明し、考えを深めることができた。

11.7	【全体会⑦】 各 6年算数「比例と反比例」 授今井教諭 (高学年)	☆中学年・低学年：プレ授業準備 ○県小算研に向けての検討。 ・プレ授業を生かし、板書計画の再確認。・指導案最終検討。
11.8	4年学活「いじめのないクラスにする 楽しい集会をしよう」授外山教諭 (中学年部会) *ICT推進プレ授業	指検討会(中学年11.7)→授業(中学年)→授業研究会(中学年) ○ICT活用が考えを伝え合い、比べながら合意形成するのに有効か。 ・アンケート結果による意図的指名、テキストマイニングによる不安の 確認、近くの友達との話し合いが有効であった。
11.9	1年算数「ひきざん」 授見城教諭(低学年部会) *県小算研プレ授業	指検討会(低学年11.8)→授業(低学年)→授業研究会(低学年) ○ICTの活用が考えを伝えたり聞いたりし、興味・関心をもって学ぶために有効か。 ・同じ考えを多くの児童に発言させたことが定着を図る上で有効であった。
11.11	4年学活「いじめのないクラスにする楽しい 集会をしよう」指倉澤教諭(中学年部会)	○ICT推進授業に向けての検討。 ・プレ授業を生かし、板書計画の再確認。・指導案最終検討。
11.15	1年算数「ひきざん」 指戸部教諭(低学年部会)	○県小算研に向けての検討。 ・プレ授業を生かし、板書計画の再確認。・指導案最終検討。
11.21	【全体会⑧】 ・県小算研、ICT推進授業準備、最終確認	○授業者の思いやねらいの再確認。授業準備。 ・授業準備、流れの最終確認。
11.22 県I 小C 算T 研推 進	4年学活「いじめのないクラスにする楽しい 集会をしよう」授倉澤教諭	○ロイノートを活用した提案理由や決定場面における意見の可視化は、意見を分伝え合い、比べながら話し合うために有効であったか。 ・ロイノートでのアンケート結果、めあて、テキストマイニングの表示などで、何を話し合うべきなのかが周知でき、自分の考えを見直したり自信をもって発言したりすることができた。
	1年算数「ひきざん」 授戸部教諭	○ロイノートでのブロック操作やその操作をもとに説明し合ったことは、減法を理解し、説明する上で有効だったか。 ・画面上だけでなく、全体でブロック操作や言葉での説明、図への書き込み等色々なやり方で繰り返し説明したことにより、減法の実践が深まり、ICTと具体物のそれぞれのよさを生かすことができた。
	6年算数「比例と反比例」 授今井教諭	○ロイノートを活用した伝え合う活動の工夫は、「見方・考え方」を働かせながら比例の関係の理解を深める上で有効であったか。 ・色別の提出が考えを類型化したり共有したりすることに役立っていた。また、違う考えの比較が比例を用いるの便利さを理解し、よりよい表現の仕方を考える上で有効だった。
12.8	5年算数「単位量あたりの大きさ」 授兵藤教諭	指検討会(高学年11.29)→町田教諭プレ授業(高学年12.6)→授業(高学年)→授業研究会(高学年) ○ICTの活用方法、友達の考えから自分の考えを深める説明方法。 ・リレーで説明により、考えが深まり、振り返りで定着に繋がった。
12.16	2年算数「九九をつくらう」 授武井教諭	指検討会①(低学年12.7)→検討会②(低学年12.15)→授業(低学年)→授業研究会(低学年) ○ICTの活用方法、友達の考えから自分の考えを深める説明方法。 ・リレー、クロス説明ができ、多くの児童が発表し、理解を深めていた。
1.18・20	特別支援部会研修	・事例研究を通して、声かけや保護者対応の情報交換ができた。
1.20	3年算数 「三角形と角」 授萩原瑠奈教諭	指検討会①(中学年・メンター12.26)→検討会②(全員1.6)→河野教諭プレ授業(中学年1.17)→授業(全員)→授業研究会(全員) ○1年の研修を通じたICTの効果的な活用、沼小スタンダードを確認。 ・見通しで既習事項(ポイント、誤答)を押さえたことにより、自力解決がスムーズに進んだ。ICTの活用を自力解決場面に絞り効果的だった。
1.30	【全体会⑨】・研修のまとめ	○成果と課題の検討、来年度の方向性の確認。
3.14	【全体会⑩】・来年度の研修計画	○来年度の計画の検討。

※資質向上研修

区分	講師	内容
4.18 保健に関する研修	養護教諭 松井 純子	・エピペンの使い方について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	荒木富美子	教諭	後藤千穂	養護教諭	松井純子
教頭	本多章浩	〃	小熊一洋	主任事務長代理	石山朝香
教諭	庭野隆	〃	神田景子	主任用務員	樋口元二
〃	関谷ゆかり	〃	萩原一貴	学校教育支援員	原澤智美
〃	佐藤紀子	〃	兵藤寛山	〃	黒沢伸江
〃	今井由香利	〃	萩原瑠奈	生活相談員	小林昌子
〃	小野里純子	〃	外山明子	非常勤講師	金子かほる
〃	星野美由紀	〃	原晃子	初任研後補充非常勤講師	田村郁子
〃	倉澤泰子	〃	片野絵理	拠点校指導員	下田洋一
〃	戸部亜由美	〃	河田志穂	スクールカウンセラー	原澤幾子
〃	町田友香	〃	武井紀恵		
〃	河野徳子	〃	見城麻桜香		

# 沼田東小学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801-1  
電話番号 0278-23-1118 FAX 22-0781  
校長名 登坂 一彦

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

- (1) 基本目標 「心豊かで、よく学び、生きる力みなぎる沼東小っ子」の育成
- (2) 具体目標 ○がまん強く元気な子 ○正しいことを進んでする子  
○よく見よく聞き考える子 ○なかよくたがいに助け合う子  
○いつもまじめに働く子

### 2 経営方針

#### (1) 目指す学校像

「子どもが明るく元気に通える学校」 「保護者が信頼して任せられる学校」  
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校」

#### (2) 目指す子ども像

「ひ」人の気持ちを感じ取り、行動する子  
「が」学力向上に向け、頑張り通す子  
「し」心身の健康を考え、生活する子

#### (3) 目指す教職員像

「子どもに夢や理想をもたせる教職員」 「子どもの個性や能力を伸ばす教職員」  
「保護者、地域、同僚から信頼される教職員」 「支え合い、高め合う教職員」

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 豊かな人間性の育成 「ひ」人の気持ちを感じ取り、行動する子

- ①人権教育や道徳教育の充実により、他人の身になって考え、好ましい行動ができる子を育成する。
- ②生活五原則(あいさつ・返事・整理整頓・無言清掃・時間を守る)の取組を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。
- ③工夫した読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
- ④全職員で子ども理解に努め、スクールカウンセラー等との連携を密にし、子ども一人一人が自分の居場所を見付け、自己有用感を高められるような態勢をつくる。

#### (2) 学力の向上 「が」学力向上に向け、頑張り通す子

- ①課題を明確にした「めあて」の明示、精選された子ども主体の学習活動、「振り返り」の充実により授業改善を行い、子どもが学びを通して成長を実感できるようにする。
- ②漢字・算数コンテスト、おもしろ算数教室等の取組の充実により、さらなる基礎・基本の定着を図っていく。

#### (3) 心身の健康・体力の向上 「し」心身の健康を考え、生活する子

- ①体力向上プランの確実な実施と、運動量を確保した体育の授業の充実により、体力の向上を図るとともに、助け合いや教え合い等のよりよい人間関係を築く場とする。
- ②感染症対策の継続、基本的な生活習慣の確立、疾病治療を家庭に呼びかける等を通して、健康教育の充実を図る。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自ら学び、伝え合う児童の育成  
副主題 ～1人1台端末の有効な活用を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・進んで自分の考えをうまく伝えられない児童が、やや多い。
- ・根拠に基づいて発表や説明をすることが苦手な児童が多々見られる。
- ・考えを比較し、よりよい解決方法を考えることがやや苦手である。

#### 指導の在り方との関わり

- ・1人1台端末を用いた個別最適な学びと協動的な学びの中で、主体的に取り組める授業形態を工夫する。
- ・図、写真、グラフなどを用いて、視覚的にとらえ考えられる場を設定できるように工夫する。
- ・考えの交流や共有場면을効率化し、考えを深めたり高めたりできるようにする。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

(低) 1人1台端末を使い、自ら進んで意見を発表したり、習熟したりすることのできる児童。

(中) 1人1台端末を使い、自ら進んで調べたり考えを伝えたり習熟したりすることのできる児童。

(高) 1人1台端末を使い、自ら進んで調べたり学び合ったりわかりやすくまとめたりすることのできる児童。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・昨年度の実践を参考に、様々な学年・教科等で、1人1台端末を使った授業に挑戦し、試行錯誤を繰り返す中で、有効な活用方法を探り、児童の主体性を高める効果的な指導方法を蓄積し、授業過程、段階等で体系化する。
- ・1人1台端末を使うことで、児童の主体性が高まった時、その要因はどこにあるのか、授業構成や発問、使用方法等に関連させながら考え、共有化する。

### 3 研修計画・経過報告 (次ページ)

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・授業過程の中で、必然性のある部分で **chromebook** を使おうという意識が、一人一授業の中で顕著にうかがえるようになってきた。
- ・**chromebook** を使うことで、児童が主体的に取り組めるようになったかならなかったかという点に、参観する教師の視点が向くようになってきた。

#### ○課題

- ・ロイロノートの共有ノートの機能などに積極的に取り組んでいるが、十分に活用できるほどこなれていないため、ややテンポが悪くなり、時間がかかることがある。
- ・児童のタイピングの技能を高めていく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業中の「いつ、どこで、どのような場面」で **chromebook** を使うと有効なのかを追求する。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.15	全体会①研修内容の共通理解	○研修主題、研修内容・方法の検討、研修計画書の検討
5.9	全体会②一人一授業の計画	○一人一授業に向けて学年ブロックでの単元、内容の検討
6.3	指導主事訪問 A	○研究授業 ○研修の方向性の指導・助言
6.13	全体会③指B 訪問指導案検討	○情報共有及び指導・助言内容の確認 ○B 訪問指導案検討 (1)
6.24	こばの 授 小川教諭 靴 「ア行の練習」	○さまざまな教具を使用し、単調にならないよう工夫を凝らした授業 ・自立型の学習支援ソフト (アプリ) を使うことは、児童の学習への主体性を高める上で、とても有効であった。
7.6	6年 授 千明教諭 国語 「私たちにできること」	○chromebookを使い、各班の「提案文」の推敲をめざす授業 ・アドバイスや感想を伝える場面で、「アンケート」機能を使って書き込み合わせすることは、主体的に推敲させる上で有効であった。
7.12	4年 授 見城朋教諭 国語 「夏の楽しみ」	○カード機能の言葉集めをもとに、俳句を作成する授業 ・定型文を書かせる際には、「提出箱」の「使う」の機能を使い言葉を用意させておくことが、主体的な作品作りに有効であった。
9.5	3年 授 今井教諭 理科	○昆虫の画像を動かし昆虫の住みかを考え決定・共有する授業 ・共有ノートで意見交流し友達と考えを共有することは、多角的な見方を育てる上で有効であった。
9.5	ひまわり 授 富沢教諭 2組 「かたちづくり」 算数 「さんかくやしかくの形をしらべよう」	○直角三角形や正方形、長方形を変身させて発見する授業 ・写真撮影し提出することは、低学年の児童を長い時間主体的に集中して活動に取り組みせる上で有効であった。
9.26	全体会④指B 訪問指導案検討	○指導案検討 (2) を行い、模擬授業等の日程を確認した。
10.5	全体会⑤指B 訪問指導案検討	○指導案検討 (3) を行った。
10.13	4年 指導主事訪問 B 国語 授 見城朋教諭 「クラスみんなで決める には」	○司会者が困る場面について「おたすけワード」を比較・分類する授業 ・共有ノート上で集約、分類させることは、多種多様な意見を知り、語彙を増やし、新しい発見に結びつけさせる上で有効であった。
10.24	全体会⑥指導内容の共通理解	○改善点の共通理解 ○教育水準授業の授業検討
10.26	5年 授 椎名教諭 家庭 「物やお金の使い方」	○「店で買う法」「店以外で買う法」の長所や短所を整理 (比較・分類) する授業。 ・グループの代表者近くに集まる活動は、コミュニケーションをとりながら意見を集約させる上で有効であった。
11.1	2年 授 小野教諭 生活 「あそび名人になろう」	○動画を見た後、追体験し、新しい遊びを試行させる授業 ・何度でも自由に動画を視聴させることは、児童の気づきを引き出す上で有効であった。
11.4	1年 授 佐々木教諭 国語 「じどうしゃくらべ」	○「つくり」と「しごと」の関係に気づかせる授業 ・入力補助機能を使いカードにまとめさせたことは、「しごと」と「つくり」を比較し、関係をつかませる上で有効であった。
11.10	4年 授 原澤教諭 社会 「きょう土の伝説・文化と先人たち 久米民之助～沼田公園生みの親～」	○共有ノートを活用し、個人→グループ→全体と考えを深め高める授業 ・班の意見をまとめていく時に、代表者のところに集まり、意見を出し合い考えをまとめさせることが有効であった。
11.10	ひまわり 授 宮崎教諭 4組 「自分の手洗いを 自立 見なおそう」	○手洗いの動画を見て、手洗いのポイントを確認・実践する授業 ・お手本の動画を見て、一人一人がポイントを意識できたことは、よりよい手洗いを実践する上で有効であった。
11.17	1年 授 林 教諭 国語 「じどうしゃくらべ」	○自動車の特徴的な部分に印をつけ、「つくり」を探そうとする授業 ・色分けしたカードを使い「しごと」と「つくり」の関係を捉えさせたことは、主体的な取組を促し、達成感を味わわせる上で有効であった。



教育水準向上授業研究会	2年生活	授 栞原教諭 「あそび名人になろう」	○動画を見た後、追体験し、新しい遊びを試行させる授業 ・何度でも自由に動画を視聴させることは、児童の気づきの質を高める上で、有効であった。
	4年外国語活動	授 関 教諭 「This is my favorite place」	○動画を撮影しあい、途中参考となる発表の動画を共有することで、その後の英語表現の質の向上を図る授業 ・自分の発表や友達の発表を録画し、良い例を共有することは、英語表現のレベルアップにつなげる上で有効であった。
	5年体育	授 植木教諭 「マット運動」	○模範演技の動画と自分の演技を撮影した動画を並べて表示することで課題を見つけ、課題解決に取り組む授業 ・2画面での比較後、話し合い活動を行わせたことは、効率的な練習を行わせる上で有効であった。
11.21	3年国語	授 見城美教諭 「誰の書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」	○工夫、食品名のカードを共有ノートで交流し、助言し合う授業 ・意見をカードに打ち込む時間と、発表し意見交流させる時間を分けたことが有効であった。
11.22	3年算数	授 米山教諭 「重さをはかってみよう」	○タブレットをノート代わりにし、重さの問題を解決する授業 ・考えの共有は、自分なりの考えをまとめさせる上で、有効であった。 ・ノートに書くことが苦手な児童も、意欲的に取り組むことができた。
11.24	ひまわり3組学活	授 白石教諭 「2学期がんばったお話をしよう」	○「アンケート機能」を使って集約し、意見交換を行う授業 ・アンケート機能を使っての意見提示は、話し合い活動を活発にする上で、有効であった。
11.28	全体会⑥		○今後の研修のまとめについての共通理解
1.16	全体会⑦		○2学期の授業実践の成果と課題
2.6	全体会⑧		○研修の成果と課題のまとめ
3.6	全体会⑨		○来年度の研修の方向性について

※資質向上研修

月日	区 分	講 師	内 容
5.18	メンター研修1	千明教諭	○学級経営について
6.8	メンター研修2	今井教諭	○情報教育について
9.5	メンタルヘルス研修	藤平医師	○職員向けメンタルヘルスについて
9.7	メンター研修3	佐々木教諭	○音楽授業の進め方について
11.9	メンター研修4	石井教諭	○教育相談について
1.25	メンター研修5	原澤教諭	○学年末の通知表・指導要録について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	登 坂 一 彦	教 諭	栞 原 智 恵	教育センター置籍	石 井 千 恵 美
教 頭	吉 野 満 由 美	〃	小 野 千 恵 美	養 護 教 諭	佐 藤 敦 子
教 諭	今 井 美 重	〃	関 真 美	事 務 主 任	井 田 健 司
〃	見 城 美 津 子	〃	米 山 亘	事 務 主 事	星 野 久 実 子
〃	千 明 浩 己	〃	林 杏 佳 音	ス ー ル カ ン セ ラー	阿 左 見 康 成
〃	佐 々 木 典 子	初 任 研 究 点 校 指 導 員	下 田 洋 一	生 活 相 談 員	中 澤 直 子
〃	見 城 朋 子	教 諭	富 沢 訓 子	学 校 支 援 員	真 庭 由 喜 枝
〃	植 木 み どり	〃	椎 名 美 香	〃	北 村 恵 美 子
〃	原 澤 ち あ き	〃	白 石 沙 耶 香	〃	横 山 利 香
〃	小 川 賢 治	〃	宮 崎 真	〃	小 林 真 理 子
〃	荒 平 幹 雄			用 務 員	霜 下 猛

# 沼田北小学校

所在地 〒378-0056 沼田市高橋場町4898  
電話番号 0278-24-4123 FAX 0278-22-0782  
校長名 諸田 義行

## I 学校の経営

### 1 学校教育目標

- (1) 基本目標 自ら学び、豊かな心とたくましい実践力を備えた児童の育成を目指す
- (2) 具体目標 〈目指す児童像〉
  - よくまなぶ子
  - 心ゆたかな子
  - たくましい子

### 2 経営の方針

- (1) 全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化：**チーム北小**
- (2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識を育む安全教育の充実
- (3) 「よくまなぶ子」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (4) 「心ゆたかな子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進
- (5) 「たくましい子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力…学社連携・学校間連携等の取組の充実

### 3 本年度の重点施策 《 》は沼田市独自施策との関連

#### (1) 「チーム北小」の強化に向けて

- ①職種に応じ専門職としての自覚と誇りをもった職務の遂行
- ②すべての教職員が互いに関わり合って子どもを育てる意識の共有

#### (2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて

- ①新型コロナウイルス感染症対策の徹底と「新しい学校生活」の継続実施
- ②施設・設備の定期点検をもとにした迅速な対応
- ③様々な状況を想定した危機管理体制の充実と危険予測・回避能力の育成【**セイフティ沼田**】
- ③アレルギー事故の未然防止

#### (3) 「よく学ぶ子」の育成に向けて

- ①学力向上対策の組織的・計画的な実施
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進
- ③学ぶ習慣と学び方を身に付ける「北っ子式学力アップ作戦」の充実
- ④授業の質を高め組織的な指導体制を構築するための教科担当制の推進
- ⑤1人1台コンピュータの効果的な活用

#### (4) 「心ゆたかな子」の育成に向けて

- ①「特別の教科道徳」の授業の充実と全教育活動をとおした心の教育の計画的な実践
- ②多面的な生徒理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」「自己有用感」の育成
- ③いじめを許さない心を育てるための子ども主体のいじめ防止活動の充実
- ④「SOSの出し方・受け止め方」に関する教育の推進【**命を守り、育てる教育**】
- ⑤「キマニド読書」の推進による読書活動の推進【**家族で本を読みましょう**】

#### (5) 「たくましい子」の育成に向けて

- ①体力向上プランに基づいた体育の授業・朝の体育活動等の充実
- ②「姿勢をよくする体幹トレーニング」の推進
- ③自分の健康を自分で守るための学校保健、食育の推進
- ④「ぐんまの子どもの体力向上推進事業」モデル研究校としての実践

#### (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力に向けて

- ①学校評価等による保護者や地域の意識の把握、各種たより等による積極的な情報発信
- ②「学校支援センター」の機能を生かした学習ボランティアとの連携の推進
- ③登下校の安全を確保するための「防犯パトロール隊」との連携
- ④隣接幼小中学校との連携【**小中連携・一貫教育**】

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～  
主題 主体的に体力の向上に取り組む北っ子の育成  
副主題 ～運動と生活習慣を関連付けた取組を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・コロナ禍の影響で外遊びや体育的行事の減少、体育授業の内容の制限などにより、運動に取り組む機会が不足した。
- ・テレビやゲーム、SNSに使う時間が多く、主体的に運動に取り組んだり、生活習慣を改善したりしようとする意識が低い。



#### 指導の在り方との関わり

- ・コロナ禍の中でも児童が主体的に運動に取り組めるように、外遊びや体育授業を見直す必要がある。
- ・テレビやゲーム、SNSに費やす時間の多さに児童が気づき、主体的に運動に取り組んだり、生活習慣を改善したりしようとする意識を高める指導を充実させる必要がある。



### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

体育授業や朝の体育活動等の運動と食事や睡眠などの生活習慣を総合的に関連付けた取組を通して、それらの関連の大切さに気づき、進んで体力の向上を図ったり健康の保持増進に努めたりすることのできる児童。

【低学年】・・・運動と生活習慣の大切さに気づくことができる。

【中学年】・・・運動と生活習慣の大切さに気づき、進んで体力の向上を図ることができる。

【高学年】・・・運動と生活習慣の大切さに気づき、進んで体力の向上を図ったり健康の保持増進に努めたりすることができる。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・ **体育授業の充実**・・・体育授業において、ICTの活用目的や有効に活用できる場面を明確にして活用し、児童に「できた」を実感させる。
- ・ **体育活動の充実**・・・朝行事の時間に、学級を中心に「北っ子タイム」で運動遊びや異学年交流を行ったり、体育委員会を中心に「サーキットトレーニング」で体力づくりを行ったり、保健委員会を中心に「外や体育館で遊ぼうキャンペーン」を行ったりして、運動好きな児童を育てる。
- ・ **規則正しい生活習慣の充実**・・・月に一度「メディアコントロールデー」を設定し、テレビやゲーム、SNSに使う時間を自分でコントロールする正しい生活習慣を身に付けさせ、生み出した時間に「姿勢をよくする体幹トレーニング」などに家族で取り組むように働きかける。

#### → 体育授業における具体化した目指す児童像

【低学年】 ICTを活用して自分（チーム）の課題に気付くことができる。

【中学年】 ICTを活用して自分（チーム）の課題に気づき、主体的に課題を解決することができる。

【高学年】 ICTを有効活用して自分（チーム）の成果や課題を明確にし、新たな課題を主体的に解決することができる。



### 3 研修計画・経過報告



#### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果
  - ・児童が学校や家庭で進んで体を動かし、遊びや運動時間が増加した。(学校評価アンケートより)
  - ・「外で遊ぶキャンペーン」活動に意欲的に参加する児童が多く見られ、運動習慣につながった。
  - ・体育授業で「課題を見付ける場面」「課題を解決する方法を考える場面」で児童に ICT を活用させたことで「課題を解決して『できた』を実感している児童」の姿が見られた。
  - ・体力優良証受賞児童が昨年度 37 人から今年度 60 人に増加した。
  - ・SNS 等を使う時間を自分でコントロールし、正しい生活習慣を身に付けようとする児童が増加した。(学校評価アンケートより)
  - ・メディアコントロールして生まれた時間の過ごし方として「運動」に取り組む児童が増加した。
- 課題
  - ・体育の授業においては、ICT 操作に時間がかかり、運動量が減ってしまう傾向がある。
- 課題解決に向けた今後の取組
  - ・体育の授業で運動量を確保するために、活用する場面と目的を精選した展開を工夫する。
  - ・「体力向上指定事業」は 1 年間のみなので、来年度以降も継続して取り組み、検証を続けていく。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月・日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
04.08	研修①推 今年度の研修計画立案	○研修計画(主題・内容・方法・研修計画)
04.18	研修②全 今年度の研修の方向性の確認	○研修主題、研修の方法についての確認
04.27	研修主任会	
05.11	授指導主事 A 訪問	
05.30	研修③全 めざす児童像の確認 学力向上研修①	○主体的に体力の向上に取り組む北っ子について ・体育授業における具体化した目指す児童像について、低・中・高学年で設定した。
06.15	研修④全 代表授業者の決定 1人1授業の計画作り	○体育以外の授業公開での目指す姿の設定の仕方 ・ICTを活用したことで、見通しをもって意欲的に取り組んだり、友達の考えに触れて自分の考えを深めたりしている姿と設定した。
07.01	1人1授業 6年2組 外国語 内田明子教諭 「おすすめの国を紹介しよう」	○考えや気持ちを伝える場面での ICT 活用 ・タブレットで作った発表資料を「発表するためのメモ」として活用することで、おすすめの国を英語で紹介することができた。
07.05	1人1授業 6年2組 体育 田邊瞳教諭 「バスケットボール」	○チームの作戦を選ぶ場面での ICT 活用 ・作戦ボード上でボールを動かしたり線を書き込んだりして、チームの作戦を考えることができた。
07.13	研修⑤全 ICT活用能力向上研修①	○Chromebook の基本的な使い方
08.23	ICT活用能力向上研修② 公開授業、B訪問に向けての指導案作りと教材準備	○ロイロノートの基本的な使い方 ・クラスの作成と児童の参加のさせ方 ・録音、録画、カードの作成と送信の方法
08.29	研修⑥全 ICT活用能力向上研修③	○Jamboard を活用した授業検討会の方法
09.02	1人1授業 なかよし 自立活動 小尾浩三教諭 「カードゲームのやり方を知り、みんなでなかよく遊ぼう」	○授業の見通しをもたせるための ICT 活用 ・ゲームのルールを解説する動画を視聴することで授業の見通しをもつことができた。
09.05	1人1授業 わかば 自立活動 角田泉教諭 「おいしいやさいをそだてるぞ!!」	○自分の考えを発表する場面での ICT 活用 ・ロイロノートの記述を活用し、自分の考えを順序立てて発表することができた。
09.26	研修⑦全 指公開授業、B訪問指導案検討	
10.12	1人1授業 (B訪問前授業) 5年1組 体育 小淵誠教諭 「ティーボール」	○チームで話し合う場面での ICT 活用 ・話し合う場面でシンキングツールを使い、チームの課題に気付くことができた。
10.21	1人1授業 5年1組 算数 白岩良子教諭 「分数のたし算とひき算」	○児童の考えを意見交換する場面での ICT 活用 ・大型モニターでノートの記述を共有し、考えを広げたり深めたりすることができた。
10.26	研修⑧全 公開授業、B訪問準備	
11.08	1人1授業 6年1組 体育 藤井剛史教諭 「走り幅跳び」	○課題に気付き意欲を高めるための ICT 活用 ・自分が跳ぶ姿をスローモーション動画で客観的に捉え、課題に気付くことができた。

11.09	1人1授業	3年1組 体育 深津美帆教諭 「プレルボール」	○チームの作戦を考える場面でのICT活用 ・チームの動きを動画で客観的に捉え、作戦を考えたり、伝えたりすることができた。
11.10	1人1授業	4年1組 体育 小林拓美教諭 「ミニハードル走」	○自分に合う方法を見つける場面でのICT活用 ・ハードルを跳ぶ自分の姿を動画で客観的に捉え、リズム良く跳べるコースを選ぶことができた。
11.11	1人1授業	1年1組 体育 角田淑子教諭 「ボールゲーム」	○チームの作戦を考える場面でのICT活用 ・前時に撮影した動画を基に、本時におけるチームのめあてを考えることができた。
11.14	1人1授業	2年2組 音楽 荒木麻弥教諭 「おまつりの音楽」	○自分の考えを広げ深める場面でのICT活用 ・リズムカードを並べたり、組み合わせたりして、「おまつりの音楽」を作ることができた。
11.16		授指導主事B訪問 5年2組 体育 上山和真教諭	○チームの課題を見付ける場面でのICT活用 ・ゲームを振り返る場面でシンキングツールを使って話し合い、新たな課題に気付くことができた。 
11.29		授体力向上モデル校公開授業 2年1組 体育 真下一平教諭	○チームの攻め方考える場面でのICT活用 ・作戦ボードを操作しながら話し合い、チームの攻め方を考え伝え合うことができた。 
11.30	1人1授業	5年1組 社会 真庭秀樹教諭 「これからの工業生産とわたしたち」	○町工場の特徴をつかむ場面でのICT活用 ・町工場の地理的概要や作業の様子を動画で確認することで、町工場の特徴をつかむことができた。
冬季休業中	年間指導計画の朱書き・教材整理		
01.16	研修⑨全	来年度の研修主題について	○研修主題、研修内容等について
02.26	1人1授業	5年2組 家庭 林みさと教諭 「物を生かして住みやすく」	○課題解決の成果に気付く場面でのICT活用 ・机の中を整理整頓する前と後の写真を比較して、どんな工夫ができたかに気付くことができた。
02.01	研修⑩推	来年度の研修主題について	○研修主題、研修内容等について
02.02		保健研修	○心肺蘇生法について
02.14	研修⑪全	学力向上研修②・特別支援研修	○学力向上・特別支援教育について

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
05.30	学力向上研修①	学力向上C	・学力向上の取組について、学力検査分析
07.13	ICT活用能力向上研修①	情報・研修主任	・Chromebookの基本的な使い方
08.23	ICT活用能力向上研修②	情報・研修主任	・ロイロノートの基本的な使い方
08.29	ICT活用能力向上研修③	情報・研修主任	・Jamboardを活用した授業検討会の方法
02.02	保健研修	利根中央病院医師	・心肺蘇生法について
02.14	学力向上研修② 特別支援研修	学力向上C 特別支援教育C	・学力検査結果考察による児童の実態把握と指導改善 ・各学級における支援を要する児童への合理的配慮について

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	諸田 義行	教諭	角田 泉	養護教諭	今 橋 三 恵
教頭	吉野 こず恵	教諭	真下 一平	主任事務長代理	川 浦 博 史
教諭	真庭 秀樹	教諭	荒木 麻弥	オンライン	宇 敷 輝 男
教諭	角田 淑子	教諭	本多 真美	学習サポーター	
教諭	藤井 剛史	教諭	上山 和真	生活相談員	大 竹 順 子
教諭	白岩 良子	教諭	田邊 瞳	学習支援員	塩 野 美 喜
教諭	林 昭恵	教諭	小尾 浩三	学習支援員	國 井 みゆき
教諭	深津 美帆	教諭	小淵 誠	用務員	田 村 健 司
教諭	小林 拓美	教諭	林 美里	教員業務支援員	戸 部 成 実

# 升形小学校

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141  
電話番号 0278-22-3107 FAX 22-0783  
校長名 森下和樹

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

基本目標 夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成

- 具体目標
- 進んで学ぶ子 (自ら学び、よく考える子)
  - 思いやりのある子 (相手の気持ちを考え、仲良くできる子)
  - ねばり強い子 (心身共に健康で、最後までがんばる子)

### 2 経営方針

《目指す学校像》 子どもが輝き、今日が楽しく、明日が待たれる学校

《目指す教師像》

- ①児童のことを最優先に考え、組織的・協働的に教育活動を推進する教師
- ②授業改善の意識を持ち続け、指導方法の工夫や研修により、授業力を高めようとする教師
- ③人権意識を高め、児童や保護者、地域から信頼される教師

- ☆ 問題発生時の早期解決 (報告・連絡・相談・共通理解での取組)
- ☆ 同僚への支援体制の充実
- ☆ 確かな学力と学校生活の充実による信頼される学校づくり
- ☆ 適切な生徒指導と児童のよさや個性を伸ばす取組
- ☆ 効率的・計画的な業務の推進 (月45時間を意識した勤務)

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 確かな学力の育成

- ①「めあて、見通し、振り返り」を意識した授業を展開し、学習活動の充実を図る。  
【振り返り学習のすすめ】
- ②はばプラ等を活用した一人一台端末の効果的利用と、児童の主体的な取組を充実させる。
- ③指導体制の工夫や専門性を生かした指導の充実により、学力の向上を図る。
- ④家庭学習の内容を工夫し、取組方法など家庭と連携した学習習慣の確立を図る。

#### (2) 健やかな体の育成

- ①感染症対策の継続と、「元気ウィーク」「升形ますます元気の日」を生かした基本的生活習慣の確立。
- ②体力向上プランの確実な実践と体育の充実、意図的な運動機会を確保により体力向上を図る。
- ③各種の避難訓練と継続的な安全教育により、児童の危機回避能力を高める。

#### (3) 豊かな心の育成

- ①児童一人一人のよさを伸ばし、よりよく、前向きに生きようとする意識を高める教育活動を行う。
- ②団活動や学級の中で、個々に活躍場面を与え、自己有用感や自己肯定感を育成する。
- ③人権教育と命の大切さを考えさせる道徳科の充実により、いじめや差別を許さない心を育てる。  
【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- ④各学年に応じた規範意識をもち、「あいさつ」「返事」がしっかりできる児童を育成する。

#### (4) 特別支援教育の充実

- ①学校全体での支援体制の強化と、個別の教育支援計画・指導計画に基いた指導・支援の充実。
- ②保護者、SC、専門相談員、関係機関等と連携を密にし、効果的な支援を図る。

#### (5) 家庭・地域と連携した教育活動の充実

- ①地域の人材や機関を活用し、体験活動を重視した総合的な学習内容の充実を図る。  
【沼田大好き！ふるさと学習】
- ②家庭や地域に積極的に情報発信し、家庭・地域・学校との相互理解を深める。
- ③隣接する幼・中・高校と連携し異年齢集団との教育活動を充実させる。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

主題  
副主題

#### ～研修主題～

自ら考え表現できる児童の育成  
～対話的な場面の工夫を通して～

#### 児童の実態との関わり

・自分の考えをもつことはできるが、それを言葉や図などで適切に表したり、まとめたりすることに課題がある。  
・自分の考えを伝えたいことをはっきりさせて話したり、説明したりすることに課題がある。  
・友達の考えを聞いて、比較して考えたり、新しい考えのよさを取り入れたりしながら、自分の考えを深めていくことが難しい。

#### 指導の在り方との関わり

・自分の考えを表したり、まとめたりすることに十分な時間を確保できていないことがある。  
・他者に向けて表現することの意義を理解させた上で、考えを筋道立てたり、理由や根拠をはっきりさせたりしながら、伝えることができるように指導を工夫する必要がある。  
・互いの考えを聞き合ったり、話し合ったりする視点が明確にならず、友達の考えを聞いた上で、互いに考えを深められるまでには至っていない。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

課題解決に向けて、自分の考えをもち、分かるように伝えることができる児童

【低学年】 課題解決に向けて、自分の考えをもち、順序を考えて表現することができる児童

【中学年】 課題解決に向けて、自分の考えをもち、目的に応じて理由とともに表現することができる児童

【高学年】 課題解決に向けて、根拠をはっきりさせて自分の考えをもち、筋道立てて表現することができる児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・自力解決の場において、児童がどのような考えをもちかを把握した上で、方法などを提示し、児童が目的に応じた方法を適切に用いて、考えを表現することができるようにする。
- ・集団解決の場において、友達との対話的な場面を取り入れ、児童が自分の考えを互いに伝え合ったり、話し合ったりできるような活動を工夫する。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・既習事項の想起やヒントカードなどを工夫し、見通しを持たせたことにより、自力解決の場において、児童が課題解決のための考えをしっかりとつことができた。
- ・話型の活用により、児童が考えを整理し、筋道立てて説明できるとともに、聞いている児童も友達の考えが理解しやすくなった。
- ・ペア交流などの対話的な場面や友達の考えを聞いた上でもう一度考える再思考の場面を取り入れることにより、友達の考えのよさに気付いたり、よりよい説明の仕方について教えたりしながら、考えを表現することができた。
- ・ICTの活用を含め、教師が目的に応じた表現方法を選択し提示することにより、児童が意欲をもって、適切に表現することができるようになってきた。

#### ○課題

- ・自力解決と集団解決の時間配分を考えて授業を組み立てる必要がある。
- ・児童の考えを共有・比較するための手立ての工夫をするとともに、友達の考えやよりよい考えについて、児童が自分の考えをもち表現できるようにしていく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・自力解決の困難さを減らしていくために、見通しを十分にもたせることや個別支援、児童同士で補っていく工夫を考えていく必要がある。
- ・集団解決の場において、方法や流れなどを児童にも分かるように示しながら、視点をはっきりさせて対話的活動を行い、児童が互いの考えを共有・比較できるようにする必要がある。また、教師の問い返しにより、共有・比較した結果に関する考えを児童が表現できるようにしていく必要がある。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [〇研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.25	・研修主題・内容・方法・ についての検討	〇研修主題・内容・方法について ・共通理解の下に対話的な場面を取り入れた授業実践を行い、成果と課題を積み重ねていく。
5.18	・研修内容・計画の検討	〇授業実践の進め方について ・各教科における見方・考え方を理解し、それらの見方や考え方を児童が働かせながら、思考や表現ができるように授業を組み立てる。
6.17	<指導主事訪問A> ・研修の意義・進め方の理解	〇研修の内容・進め方について ・つきたい資質、力、表れてほしい姿をもって、授業構想をし、いきいきと表現し合える授業作りをしていく。
6.28	・授業実践 (全体会) 4年算数科 「小数のしくみを調べよう」 授 諸田教諭  	〇見通しをもたせた自力解決、集団解決とまとめのつながりについて (成果) ・前時までの学習内容を振り返りながら、児童の言葉を拾ってめあてを設定したことにより、児童が本時の課題解決への見通しをもつことができた。 ・見通しをもって自力解決に臨むことができるようにしたことにより、既習事項を使いながら自分の言葉や図で考えを表現することができた。 ・ペアでの対話的な場面を取り入れることにより、友達の考えを共有することができ、集団解決の場で他者説明をさせることで、より理解を深めることができた。 (課題) ・出てきた考えを比較・検討する時間を取るために、自力解決の時間を短くし、集団解決の場で考えを共有しながらまとめにつなげていく必要がある。
7.14	・授業実践 3年音楽科 「リコーダーの響きを感じ 取ろう」授 上原教諭	〇めあての達成や表現のための観点の示し方について ・めあてを意識して課題解決をしたり、多面的な考えを引き出したりするために観点を示すことが重要である。
夏季休業中	・授業構想 (各学年) ・研究の内容の確認	
8.23	・授業実践について ・	〇授業実践について ・これまでの授業の成果と課題を生かし、授業実践を積み重ねていく。
9.5	・指 B訪問授業 検討①	〇目指す児童像と授業のねらいなどの関連について ・目指す児童像、ねらい、授業の視点等の一貫性をもたせることが重要である。
9.27	・授業実践 3年算数科 「大きい数のかけ算」 授 青木教諭	〇ICTを活用した集団解決について ・モニターの画面で考えを共有しながら、板書も活用し、児童の考えをまとめに活かしていくことが重要である。
10.7	・授業実践 1年算数科 「たしざん」 授 戸部教諭	〇課題解決に向けた自分の考えの引き出し方について ・具体的な場面を用いて既習事項と本時の課題を関連させ、見通しをもたせることが重要である。
10.11	・指 B訪問授業 検討②	〇目指す児童像との関連について ・目指す児童像に近づけるために、手立てや活動内容を絞り込んでいくことが重要である。
10.18	・授業実践 特支自立活動 「みんなで考えよう」 授 篠原教諭	〇学習の見通しと流れをつかませる工夫について ・ワークシートや教具によって、見通しや流れをつかませることが重要である。
10.24	・指 B訪問授業 検討③	〇自力解決のための見通しのもたせ方について ・確実に自力解決をさせるために、見通しをもたせる導入にすることが重要である。
10.27	・授業実践 6年国語科 「みんなで楽しく過ごした	〇共通点や差違点を話し合わせる工夫について ・話し合いの視点を提示しながら、視覚的なツールなどを活用して



	めに」授 登坂教諭	いくことが重要である。
11.1	・授業実践 特支自立活動 「なかよし交流会を開こう」 授 松山教諭	○再思考の活動の工夫について ・自分の状況を確認、再思考する場面を設けることで、考えを広げることができるようにすることが重要である。
11.1	・授業実践 2年算数科 「新しい計算を考えようー かけ算(1)」授 山口教諭	○集団解決における考えの整理について ・集団解決の場に出てきた考えについて、具体的な根拠に基づきながら検討させる必要がある。
11.7	・授業実践 2年算数科 「新しい計算を考えようー かけ算(1)」 授 指導主事訪問B(全体会) 角田教諭	(授業の視点) 自力解決で追究したことを集団解決で説明する時に「話型」を使うことは、順序を考えて表現する手立てとして有効であったか。 (成果) ・導入の場において、既習事項やキーワードをテンポよく引き出したことで、児童に考えの見通しをもたせることができ、児童が式やアレイ図を用いて考えを表現することができた。 ・話型を使って考えを説明させたことにより、児童が式や図との関連を図りながら順序よく説明することができた。 ・対話の場において視点を示したことにより、児童の考えが整理され、質問する姿も見られた。 (課題) ・集団解決の場において、考えを検討させる際に、具体物を取り上げたり、アレイ図をかく過程を説明させたりする方法を取ることでより理解を深める必要がある。 ・ねらいが説明できることであるならば、適用問題も説明をさせるものにする必要がある。
11.28	・実践の課題の確認	○これまでの授業実践の成果と課題について ・授業実践で共通している成果と課題について、共通理解し、課題について改善をしていく必要がある。
12.16	・授業実践 5年算数科 「面積の求め方を考えよう」 授 小池教諭・上原教諭	○ICTを活用した自力解決について ・ICTの利点を生かしながら、具体物を使うことも併用し、考えさせていくことが重要である。
1.30	・研修経過の確認	
2.13	・研修のまとめ	
3.13	・次年度の研修について	

※ 資質向上研修

月日	区分	講師	内容
8.23	ICT教育	外部講師	・ICT活用における授業づくり研修
12.20	不審者対応	外部講師	・不審者対応訓練
1.13	特別支援教育研修	外部講師	・児童への支援について

〈職員一覧〉

職名・担任等	氏名	職名・担任等	氏名
校長	森下 和樹	なかよし2	篠原 恭代
教頭	七五三木 宏	なかよし3	松山 香織
教務主任	上原 純子	養護教諭	本郷 郁香
1年1組	戸部 栄子	事務主事	佐藤 佑香
2年1組	角田 順子	非常勤(家庭科)	小林 美緒奈
2年2組	山口 傑	非常勤(理科)	小野 修一
3年1組	青木 和成	スクールカウンセラー	小林 一郎
4年1組	諸田 香奈	生活相談員	大竹 ゆかり
5年1組	小池 寿久	学校教育支援員	今井 由香
6年1組	登坂 厚子	用務員	熊澤 正幸
なかよし1	倉品 健		

# 利 南 東 小 学 校

所在地 〒378-0003 沼田市上久屋町2135番地  
電話番号 0278-22-3006 FAX 22-0784  
校長名 大竹 敏之

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

【基本目標】 社会の変化に主体的に対応できる豊かな心、高い知性、強い意志を備え、生き生きと自己表現でき、心身ともにたくましい実践力のある子どもを育成する。

【具体目標】 ○すすんで勉強する子（自ら考え進んで勉強する子）  
○思いやりのある子（他人の気持ちになって考え、助け合う子）  
○心身ともに健康な子（元気に明るく毎日を過ごせる子）  
○ねばり強くやりぬく子（目標を持ってしっかりがんばれる子）

### 2 経営方針

#### (1) 目指す学校像 『自信と誇りにあふれた学校』 【TONAMIプライド】

- ①子どもが自分に自信をもち、友達・学校・地域を誇りに思う学校
- ②教師が、子ども・学校を誇りに思う学校
- ③子どもを一番に考える学校（子どもの立場で考える・子どもファースト）
- ④保護者・地域から応援・自慢される学校

#### (2) 目指す教師像

- ①常に「子どもの目線」で考える教師
- ②力を合わせ、組織として課題を解決する教師
- ③互いに気遣い、「自分のこと」として考える教師
- ④理論より「まず動く」教師（率先垂範・師弟同行）
- ⑤本質を見つめ、「目的と手段」を区別する教師

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 安全の確保と健康の保持増進

- ①命を守るため、登下校と緊急時の安全確保（通学路の安全点検・登下校の行動指導）
- ②新型コロナウイルス対策の徹底（学校保健委員会の充実・家庭との連携強化）
- ③体力向上プランの推進（運動機会の意図的な設定による運動量の確保）

#### (2) 確かな学力の向上

- ①子どもが中心で教師は補助する授業の実現（校内研修の計画的な推進）
- ②ICTを活用した振り返り学習の徹底による基礎的な知識・技能の確実な定着
- ③ICTを活用した問題解決的な学習（TONAMIスタイル）の充実による思考力・表現力の育成
- ④教科担当制の活用による専門性を生かした指導と多面的な生徒指導の充実
- ⑤ALTと計画的に協働した外国語活動及び外国語科の授業の充実
- ⑥家庭との積極的な連携による自主的な学習習慣・読書習慣の確立

#### (3) 豊かな心の育成

- ①自分に自信をもつ指導の推進（自己肯定感・自己有用感・自己効力感を高める指導・支援）
- ②考え議論する道徳の充実（教材研究の深化と考えを揺さぶる発問の意図的な設定）
- ③特支コーディネーターを中心に全教職員が組織的に関わる特別支援教育の実践
- ④地域の素材や外部人材を活用した授業の充実による「地域を誇る意識」の向上

#### (4) 家庭・地域、幼・中との連携

- ①保護者との意図的・積極的・計画的な連携（互いに顔が見える関わり）
- ②各種たよりやWebページによる家庭や地域、幼・中への情報発信の充実
- ③「地域で育てる地域の学校」の実現（PTA・学校支援ボランティアとの協働）
- ④外部機関と積極的に連携した教育相談の充実（SC・SV・SSW・福祉部局との計画的な連携）

#### (5) 全教職員の経営参画と職能成長

- ①各主任が中核となる組織的な分掌運営の充実（コーディネーター意識の向上）
- ②組織的な情報共有と迅速な対応の実現（危機意識、報告・連絡・相談・確認・記録）
- ③教育公務員としての高い倫理観と服務規律意識の向上（子どもに背中を語る教師）
- ④業務削減と効率化、働き方改革の継続とさらなる充実（ベター業務・マスト業務）

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自ら考え、共に学びを深められる児童の育成

副主題 ～各教科における「考える資質・能力の深まり」に視点を当てた教材・教具の工夫を通して～

#### 児童生徒の実態との関わり

- ・聴こうとする姿勢が育ってきている。
- ・具体的なゴールが見えると、見通しをもって取り組める。
- ・既習事項を使って新たな課題を解決しようとする姿勢が身に付いてきている。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着が一時的なものであったり、活用につながらなかったりする児童がいる。また、各学級・学年間で教科により学力差がみられる。
- ・学力差を解消し、全員の児童が「深い学び」を実現することが課題である。

#### 指導の在り方との関わり

- ・話し合い活動で考えを全体共有したあと、再考する場を設定し、学びを深めていく。
- ・「発問の工夫」により、各教科における「見方・考え方」を働かせて、課題解決できるようになってきている。より「深い学び」を実現していくために、「教材・教具の工夫」に焦点を当てて、指導・支援を重ねていく。
- ・全員の児童に課題解決に向けて見通しをもたせ、学びに向かわせていくために、教材を工夫して与えたり、教具を有効的に活用したりしていく。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

【低学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の話をよく聞いて、考えの共通点や相違点に気付くことができる。

【高学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の考えのよさを取り入れて、考えを広げたり深めたりできる。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するために共通実践する手立て

- ・基礎的・基本的な知識技能を基盤にした問題解決的な学習過程(TONAMIスタイル)を共通する学習過程として取り入れる。
- ・教材研究を充実させ、教科の特質、教材の系統、教科の「見方・考え方」、児童の実態やつまづきが予想される問題などをしっかりと把握する。
- ・教科指導にかかわる全職員が授業を公開し、研究授業に当たっては児童へのかかわり方を中心に、全職員でねらいと振り返り、教材の与え方、適用問題、教具の活用について話し合い改善していく。
- ・課題解決に向けて見通しをもたせる指導の工夫については、発問の工夫と共に、学級の実態や個に応じた教材を教師が工夫して作成したり、共有したりする。また、授業においてICT機器を含めた教具を有効的に活用していく。

#### 【教材・教具の工夫とは】

例：学習の習得状況に応じた練習問題や発展問題、課題解決に導くためのヒントカード、めあてから振り返りまでを見通すことができるワークシート(以下WS)、視覚的理解を促す掲示物、個々の児童の状況を客観的・継続的に把握・共有するためのICT機器の活用など。

### 3 研修計画・経過報告〈裏面〉

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・児童の実態や教科、単元、学習過程に即した教材・教具を作成したり、活用したりしたことで、他と比較しながら考えを整理するなど、児童の考える資質・能力が深まる姿が見られた。

#### ○課題

- ・児童の実態をよりの確に把握しながら、身に付けさせたい資質・能力に即した教材・教具を、より一層精選したり焦点化したりして取り入れる必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・単位時間内における「どのような資質・能力を身に付けさせたいか」という視点を一層明確にした授業展開の徹底に努めていく必要がある。
- ・一人一台端末タブレット(以下タブレット)を「どこで」、「どのように」活用すれば、「子どものためになるのか」を考えながら、積極的にタブレットを活用した授業展開の工夫に努めていく。

### 3 研修計画・経過報告

共通実践する手立て「各教科における『考える資質・能力の深まり』に視点を当てた教材・教具の工夫を通して」に着目した研修計画

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 ※ゴシック体は、教材・教具の工夫

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研究の視点(上段)・明らかになったこと(下段)〕
4.11	研修推進委員会 ・研修計画の検討	○研修主題・副主題・研修計画の原案作成、研修計画の検討 ・深い学びを実現するためには、考える資質能力に視点を当てた教材・教具の工夫が必要である。
4.25	・研修計画の検討	○研修主題・副主題、研修内容、目指す児童像、学習の手引きについて
5.23	・研修計画の確認、研究の内容と方法等について	○研修計画、研究の内容・方法等について ・指導案の形式の確認（A訪問及び校内研修一人一授業） ・一人一授業の授業研究を積み重ねる。
6.13	授3年音楽 鈴木雅之教諭 「いろいろな金管楽器」 (全体会)	○金管楽器固有の特徴を視覚、視覚・聴覚、聴覚ごとに捉えさせるために、指導内容に応じた教材・教具を用いて発問を行ったことは効果的であったか。 ・WSの課題が分かりやすく、子どもは音を聴いたり、映像を見たりしながら自分のイメージを深め、友だちの意見を聞きながらさらにイメージをふくらませていた。
7.11	・指導主事訪問Aの共通理解	○指導主事訪問Aの共通理解、校内研修計画の確認、研究の内容、方法等の検討
夏季休業	個人研修	○一人一授業の計画、教材研究、指導案作成等(個人研修)
8.26	・研修推進委員会	○2学期の研修計画について
8.29	・研修計画の再確認	○2学期の研修計画について
	授3年算数 吉野幸恵教諭 「重なりに注目して」 (中学年部会)	○重なりのある長さの求め方を考えさせる上で、線分図を活用させたことは、効果的であったか。 ・「線分図を使うと、分かりやすくなる」という旨の言葉が、たくさんの児童から発せられた。
9.5	授わかば(情緒) 自立 片野佑美教諭 「息を合わせて、協力しよう」 (特支部会)	○コミュニケーション活動において、「話す」「聞く」などの言葉を伝え合う意欲をより高めるため「新聞棒ゲーム」を活用することは有効であったか。 ・児童のなじみのある教具「新聞棒」を使うことによって、活動に入りやすく児童も活動に前向きに取り組むことができた。
9.12	指B訪問指導案検討①	○本時の展開における児童の実態を踏まえたWSの内容と活用について検討
9.22	授1年算数 潮見厚子教諭 「どちらがおおい」 (低学年部会)	○直接比較でどちらが多いか比べるために、グループで操作活動をしたことは、有効であったか。 ・水量比べをする班別学習において、視覚的に見やすいように着色した水を活用させたことで、全員がねらいを達成できた。
9.27	授わかば(情緒) 自立 林路代教諭 「息を合わせて、協力しよう」 (特支部会)	○コミュニケーション活動において、「新聞棒ゲーム」を行ったことは「話す」「聞く」などの言葉を伝え合う意欲を高めるのに有効であったか。 ・前時の振り返りや、ゲームのルールをICTを使用して視覚的に捉えさせたことは、理解力を高めるのに有効だった。
9.29	授2年算数 林さとみ教諭 「さんかくやしかくの形をしらべよう」 (低学年部会)	○辺や頂点など図形を構成する要素に着目して、三角形・四角形を弁別できるように、スライド資料やWSを活用したことは効果的であったか。 ・WSに図形を添付したことで、辺や頂点に印を書き込むことができ、三角形や四角形の構成要素に着目しながら、図形を弁別させることができた。
9.29	授4年算数 大関一久教諭 「およその数の使い方と表し方を調べよう」 (中学年部会)	○見積もることのよさに気付かせるために、ロイロノートを使って個人で操作活動を行ったことは、児童の見方・考え方を働かせるのに有効であったか。 ・ロイロノートのよさを生かして、児童がパソコン操作をしながら考える学習は、児童の思考の多様性を高めるのに役立った。
10.4	授通級自立 小林庸子教諭 「音読名人めざして、パワーアップ」 (特支部会)	○リーディングルーラーやスラッシュの活用、なぞなぞの活動を取り入れたことは、主体的な読みの体験を促すために有効であったか。 ・リーディングルーラーやスラッシュを活用しながら、文脈の核となる語句を確認したり、承認の言葉掛けを行ったりしたことに

		より、主体的な読みの体験につながっていた。
10.7	授1年算数 小野露葉教諭 「かたちあそび」 (低学年部会)	○立体の箱を分類する活動において、形に着目できるように身近にある空き箱を使い、その空き箱の特徴を考えさせたことは、立体図形の仲間わけをさせることに有効だったか。 ・板書で、箱の写真や、キーワードの紙を用意したことで、児童から出た発言を分かりやすくまとめることができた。
10.11	授6年算数 原泰章教諭 「角柱と円柱の体積」 (高学年部会)	○複雑な角柱の体積を求めさせるために、底面の確認などを入れたスモールステップのWSを用いたことは有効であったか。 ・具体物をねらいに迫る見せ方にしたり、映像で底面積を求めやすいように提示したりしたことで、児童が体積を求める公式「底面積×高さ」につながる見方を想起できた。
10.12	授6年社会 松井みづ穂教諭 「戦国の世から天下統一へ」 (全体会)	○二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考えさせるために、WSを用いてグループで意見を交流させたり、戦い方や政治などの視点を与えたりしたことは有効であったか。 ・前時までの学習内容、二人の武将の比較、「戦い」「政治」という2つの視点、話型が盛り込まれたWSの工夫によって、児童はWSを使って話し合うことができた。
10.17	授2年算数 桑原成海教諭 「新しい計算を考えよう」 (低学年部会)	○「ひとつ分の数」「いくつ分」を捉えさせ乗法の意味を理解させるためにおはじきを活用したことは効果的であったか。 ・「ずつ」「分」「人」ポイントになる表現カードの掲示は自力解決の際の糸口となるものであった。
	授わかば(知的) 自立 阿左見成美教諭 「息を合わせて、協力しよう」 (特支部会)	○コミュニケーション活動において、「話す」「聞く」などの言葉を伝え合う意欲をより高めるために「せーのでクレーンゲーム」を活用することは有効であったか。 ・穴埋め、イラストカード、ネームプレートなどの教具を使ったことで、一人一人が自分のめあてを意識しながら活動に取り組むことができた。
10.18	授4年国語 尾形あや教諭 「気持ちの変化を読み、 考えたことを話し合おう」 (中学年部会)	○交流場面で考えを共有し、自分の考えを見つめ直したことは、一人一人の考え方の違いに気付く上で有効であったか。 ・クラゲチャートで考えを整理し交流したことで、友達の考えのよさや違いに気付くことができた。
10.24	指B訪問指導案検討②	○本時の展開における児童の実態を踏まえたWSの活用を中心に検討
11.4	授5年社会 佐伯悠教諭 「自動車をつくる工業」 (全体会)	○WSを活用し、学習の見通しを持たせたり要点を把握させたりした上で、考えを記述する活動を行ったことは、これからの自動車づくりに関わる人々の思いについて、児童が考えを深めたり、広げたりするために有効であったか。 ・TONAMIスタイルに沿ったWSを活用し、見通しを持たせ方、要点の整理、考えのまとめが円滑に行われ、最終的に児童の思考の深まりや広がりが見られた。
11.21	・指導主事訪問Bの共通理解	○指導主事訪問Bの共通理解と今年度を振り返って
12.19	・今年度の研修のまとめ	○今年度の研修の成果と課題、「沼田市の教育」について
1.16	・今年度の研修のまとめ	○今年度の研修のまとめと次年度の方向等について
2.20	研修推進委員会 ・次年度の研修について	○次年度のテーマ・サブテーマの仮決定
3.6	・次年度の研修の方向性について	○校内研修の成果と課題についての確認 ・今年度の成果と課題の共通理解と次年度の方向性を確認

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	大竹 敏之	教諭	尾形 あや	教諭	小林 庸子
教頭	大塚 純子	教諭	大関 一久	養護教諭	中條 恭子
教諭	原 泰章	教諭	佐伯 悠	事務主事	萩原 温大
教諭	潮見 厚子	教諭	松井みづ穂	生活相談員	井上 美里
教諭	小野 露葉	教諭	阿左見成美	支援員	吉野 久子
教諭	林 さとみ	教諭	林 路代	支援員	丸田 裕子
教諭	桑原 成海	教諭	片野 佑美	用務員	金井 雅之
教諭	吉野 幸恵	教諭	鈴木 雅之		

# 池田小学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地  
電話番号 0278-23-9320 FAX 0278-23-9369  
校長名 渡辺 元子

## I 学校の経営

### 1 学校教育目標

【基本目標】 自ら考え 正しく判断し 行動できる 子どもの育成

【具体目標】 (知) 自分から進んで学習できる子ども

(徳) 思いやりのある子ども

(体) 体を鍛える子ども

### 2 経営方針

#### めざす姿

##### 【めざす学校像】

- 児童が楽しいと思う学校
- 保護者が信頼する学校
- 教職員にとって魅力ある学校

##### 【めざす児童像】

**い** いつも笑顔  
**け** 元気なあいさつ  
**だ** 誰にもやさしい  
池田の子

##### 【めざす教師像】

- 子どものよさを認め伸ばし、授業改善に努め、チームの一員として尽力する教師

### 3 本年度の重点施策

(1) 基礎・基本を定着させ、身に付けた知識・技能を生かして思考力・判断力・表現力の育成を図る。

- 授業の目標（めあて・ねらい）からまとめ・振り返りまでを板書により明確に示す。
- 国語科、算数科を中心とした次の学びにつなげる補習や家庭学習などの振り返り学習を徹底する。
- 体験的な学習活動を取り入れ、自ら考え・判断し表現する授業の工夫や単元構想に取り組む。

(2) 豊かな心の育成に努める。

- 全校体制で「考え・議論する道徳」を推進する。
- 「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の機能を生かした指導を意図的に行う。
- 児童による主体的ないじめ防止活動や人権教育の充実を図り、児童が安心して通える学校にする。

(3) 健康・体力の向上を図る。

- 心と体の健康づくりに向けて個に応じた指導を徹底する。
- 児童目線での健康・安全指導に努め、地域・保護者と連携して自尊感情や危険予測・回避能力を高める。

(4) 家庭・地域と連携し学校教育の充実を図る。

- きめ細かな情報発信に努め、家庭・地域と積極的な連携を進める。
- 基本的な生活習慣の育成や規範意識の高揚について、家庭と具体的な連携を図る。

(5) 小中の連携を進め、教育効果を高める。

- 小中連携行事として、引渡訓練の共同実施や授業交流など、交流事業を充実させる。

(6) 教師の指導力の向上、学校組織の活性化を図る。

- 教職員の専門性を生かした分掌運営を行い、一人一人がリーダーシップを発揮し指導体制の活性化を図る。
- 育成指針に合わせた的確な目標設定と人事評価制度を生かして、職能成長や組織の活性化を図る。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら学ぼうとする意欲をもち、互いに考えを深める児童の育成

副主題 ～各教科の交流場面における ICT を活用した授業実践を通して～

#### 児童の実態等との関わり

- ・教師の観察から、全体の前でしっかりと意見を言えたり、考えを深められたりする児童が少ない。
- ・普段意見が言えない児童も、ICT を活用すると、自分の考えを表現することができるようになってきた。

#### 指導の在り方との関わり

- ・交流場面で ICT を活用してきたが、考えを伝え合うのみで、考えを深めるところまでいかなかった。
- ・児童の考えをより深められるような ICT を活用した意見交流の仕方、有効的な活用方法を授業実践で見つけていく必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具現化した目指す児童像

自分の思いや考えをもち友だちとの交流を通して、お互いに理解し合い認め合いながら自分の考えを深めようとする児童

【低学年】自分の思いや考えをもち、友だちに伝え、友だちの考えを分かろうとする子

【中学年】自分の思いや考えを表現し、友だちの思いや考えの相違点や共通点に気づき考えを広げようとする子

【高学年】自分の思いや考えを表現し、複数の考えを比較したり関連付けたりして考えを深めようとする子

#### (2) 具現化した目指す児童像を達成するための共通実践するための手立て

##### ○各教科で ICT を活用した授業づくり

- ・めあてを追究する場面で ICT を効果的に使った授業づくりを行うために、個別に追究した解決方法や結果を ICT を使い発表させて、考えを深められるような実践を積み重ねながら、目指す児童像に近づける。

### 3 研修計画・経過報告<裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・今年度はさらに ICT 活用が進み、意見発表ではなく意見交流ができるようになってきた。他者説明も ICT を使うことにより、より簡単に素早くできるようになっている。

#### ○課題

- ・学年に応じた ICT のスキルを身につけさせたり、新しいやり方に挑戦する意識改革をすることが必要である。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・ロイロノート以外での Chromebook の活用方法を授業実践を積み重ねながら見つけていく。





3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討

授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
04.08	・研修計画の検討 (研修推進委員会)	○昨年度の研修内容の共通理解 ○今年度の研修主題、副主題、研修内容、組織についての検討 ○「学習のやくそく」、生活記録等の共通理解
04.11	・今年度の研修の方向性の確認 (全体会①)	○研修テーマ、研修の方向性についての確認 (ICT の活用場面・方法について) ・研修テーマ、研修の方向性についての共通理解 【ICT を、交流 (考えを深める) 場面で活用する。】 ・1人1授業実施の確認と代表授業の決定
04.25	・ICT研修 (全体会②)	○交流場面におけるICTの活用方法 ・ロイロノートでのテキスト作成、提出の仕方、発表の仕方、考えの比較の仕方 などの授業での活用方法。
05.30	4年体育 「マット運動」 	授 桑原教諭 (全体会③) ○体育におけるICT活用の有効性について ・動きを動画撮影したことで、自分の動きが確認でき、動画を見ながら友だち同士で分かりやすくアドバイスできた。 ・教師が機器の操作に目が行ってしまい、児童の動きを見取ることが難しかった。
06.15	指導主事訪問A	○管理職による説明 ○指導主事による授業参観
06.20	・A訪問を終えて (全体会④)	○A訪問を受けての課題や改善点について ・単元を見通してどの場面でICTを使うのか、授業構想をしっかりと考えていくことが大切。
08.29	3年道徳 「友だちの気持ちになっ て」 	授 井田教諭 (全体会⑤) ○道徳におけるICT活用の有効性について ・ロイロノートの『共有ノート』に貼り付けたものをまとめる作業では、グループごとに同じ意見をまとめられた。 ・意見交換のマニュアルがあり、分かりやすかった。 ・『共有ノート』に貼り付けたものが小さくて見づらかった。
	・NRT結果考察	○結果考察による児童の実態把握と指導改善
09.26	1年算数 「たしざん」 	指 森下教諭 (全体会⑥) ○1年「たしざん」授業構想、本時について ・ロイロノートを使いプリントに書いた考え方を写真に撮り全体で共有する。
10.03		授 森下教諭 (全体会⑦) ○算数におけるICT活用の有効性について ・ロイロノートで他の児童の問題を見させたことで、自分のペースで問題を解くことができた。 ・「まとめ」へと向かうために、様々な問題をロイロノートで見る活動が役立っていた。
10.17	5年道徳 「相手の立場もたいせつ に」	指 田村教諭 (全体会⑧) ○5年「相手の立場もたいせつに」授業構想、本時について ・付箋を使ってKJ法でグループで話し合い、付箋を貼った画用紙をロイロノートで写真に撮り全体で共有する。
10.24		授 〃 ○グループで話し合いをした後、全体で共有し考えを深める時



		(全体会⑨)	間を十分に確保するための工夫について ・教材の前半部分は事前に児童に読ませておき、後半の部分から本時をスタートさせたり、あらすじを分かりやすく表にまとめて掲示したりするとよいのではないか。
11.07		指(全体会⑩)	○プレ授業を受けて最終検討
11.11	4年算数 「分数をくわしくしらべよう」	授小田橋教諭 (中学年部会) 	○算数における ICT 活用の有効性について ・ロイロノートでノートの写真を撮り提出し、考えを共有する場面で、他者説明を入れたことで、考えが深められた。 ・ヒントカード(資料)があることで、意欲的に課題に取り組めた。
11.22	5年道徳 「相手の立場もたいせつに」	授指導主事訪問B  	○道徳における ICT 活用の有効性について (各班の考えの共有場面でロイロノートを活用) ・全員がすべての班の考えを見ることができ、考えを深めることができた。 ・ICT を使い、他者の考えを見て自分の振り返りに生かしていた。 ・児童が KJ 法に慣れていて、どの班も活発に話し合い、考えが深められた。
12.01	6年道徳 「他国との心のつながり」	授竹内教諭 (高学年部会) 	○道徳における ICT 活用の有効性について ・導入場面で、アンケートやパワーポイントでの説明を、大型画面を使ってしたことで、児童が興味関心をもって授業をスタートできた。 ・ロイロノートで回答を共有したことで、友だちの意見を見て全員が考えることができた。
12.12	・沼田市教育水準報告 (沼東小を参観)		○1年国語「せつめいする文しょうをよんで、かこう」(研修主任参加) 2年生活「あそび名人になろう」(井田教諭参加)
01.23	・成果と課題 (全体会⑪)		○今年度の成果と課題、指導のあり方と児童の変容のまとめ
02.20	・次年度の研修内容、CRT 検査結果分析(全体会⑫)		○来年度の研修主題・内容・方法についての検討 ○CRT 検査結果分析による反省と課題設定
03.20	・次年度の研修(全体会⑬)		○主題、副主題、来年度の方向性について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	渡辺 元子	教諭	小田橋 美玖
教頭	青木 益巳	教諭	齋藤 理恵
教諭	桑原 昭夫	教諭	小野 修一
教諭	星野 竹志	養護教諭	角田 美由紀
教諭	森下 好美	事務主事	三俣 沙月
教諭	竹内 正	生活相談員	金子 尚美
教諭	井田 さやか	用務員	松井 敦夫
教諭	田村 美希		

# 薄 根 小 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町32番地  
 電話番号 0278-22-2891 FAX 22-0785  
 校長名 菅原 慶成

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

「進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」

- 進んで学ぶ子（自主、創造、根気）
- 思いやりのある子（正義感、奉仕、博愛）
- 体をきたえる子（健康、安全、体力）

### 2 経営方針

	【目指す学校像】	【目指す児童像】	【目指す教師像】
柱	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が楽しいと思う学校</li> <li>※わかった喜び</li> <li>○保護者が信頼する学校</li> <li>※健康・安全・危機管理</li> <li>○教職員に魅力ある学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○うれしい言葉「ありがとう」</li> <li>○すてきな笑顔で毎日あいさつ</li> <li>○粘り強く努力する</li> </ul> <p style="text-align: right;">薄根っ子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童のよさを見逃さない教師</li> <li>○温かい笑顔の教師</li> <li>○チーム力を意識する教師</li> <li>○授業改善に努力する教師</li> </ul>
基礎	児童を社会人へと鍛える場	規律ある生活	毅然とした指導
土台	一人一人の児童を大切にする愛情を持った指導（教師としての使命感）		

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 「進んで学ぶ子」の育成（学校評価：評価対象Ⅱ「確かな学力」）

- 1人1台端末の効果的な活用を目指した授業改善と校内研修への全校体制での取組
- 家庭と連携した家庭学習習慣の確立と体験活動を活用した学習意欲の高揚
- 個別の指導計画の作成・活用と職員との連携を図った特別支援教育の充実

#### (2) 「思いやりのある子」の育成（学校評価：評価対象Ⅲ「豊かな心」）

- 全教育活動における道德教育の推進と特別活動の充実
- 児童の心に寄り添った積極的な生徒指導
- いじめ防止基本方針を踏まえた適切・迅速な対応と児童主体の「いじめ防止活動」の展開

#### (3) 「体をきたえる子」の育成（学校評価：評価対象Ⅳ「健康・体力」）

- 「体力向上プラン」をもとにした、組織的・計画的な体力づくりの推進
- 学校保健委員会の活動を核とした健康教育の推進（学校保健委員会による「いきいき姿勢」と自らの健康を自らで守る感染症予防の推進）
- 安全教育の充実による危機回避能力の育成（学校評価：評価対象Ⅴ「安全確保・施設設備」）

#### (4) 地域と連携した信頼される学校づくり（学校評価：評価対象Ⅰ「保護者との連携」）

- 地域を愛し、大切にする心の育成
- 地域の自然、歴史、文化・伝統等を活用したり、理解したりする教育の推進
- 地域との協体制づくり

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自分の考えをもち、表現できる児童の育成

副主題 ～各教科における協働的な学びを取り入れた指導を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・自分の考えをもっているにもかかわらず表現できなかったり、自ら考えずに友達に依存してしまったりする児童がいる。
- ・表現しようという意欲はあるが、表現力に差がある。
- ・互いの考えを伝え合うだけで終わってしまい、交流から新たな気付きを得たり、考えを深めたりするところまでいかない。

#### 指導の在り方との関わり

- ・自分の考えをもたせるための手段を講じる。
- ・どの子も活躍できるように、意図的な指名や発問の工夫をしていく。
- ・語彙が少なかったり、どのように表現したらよいか分からなかったりする児童のために、表現に適した語彙や話し方・書き方のひな型などを示す。
- ・不確かなものが明らかになる場、探究する場として、協働的な学びの場が位置づくよう、学習過程や学習活動の工夫を図る。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、様々な方法で自分の考えを表現できる。

【中学年】 友達とのやりとりを通して考えを深め、相手意識をもって自分の考えを表現できる。

【高学年】 友達とのやりとりを通してよりよい考えをもち、相手意識をもって自分の考えを分かりやすく表現できる。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・導入の場面で既習事項の確認や課題把握の徹底を図ることで見通しをもたせ、主体的に課題解決に取り組めるようにする。
- ・表現に適した語彙やひな型を選択したり、ICT機器やハンドサインを活用したりするなど表現方法を工夫できるようにする。
- ・目的意識をしっかりともたせた上で、ペアやグループ、全体で交流する場を設定する。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・自分の考えがもてなかったり自信がなかったりした子も、交流の場面で友達の考えを聞いて、理解したり自分の考えを再構成したりすることができた。

#### ○課題

- ・児童が主体的に取り組み、他者との対話を通して自分の学びを深めることができるような協働的な学びになるように工夫していく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・協働的な学びをさらに充実させるための効果的な手立て（学習過程、教師の発問や言葉かけ、表現方法など）を試行し、成果を蓄積・共有していく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.11	・今年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○今年度の研修の方向や組織について共通理解を図る。 ・今年度の方向性や組織について確認された。
4.25	・今年度の主題・副主題や研修内容についての検討 (全体会)	○今年度の基幹となる研修の方向や組織について共通理解を図る。 ・学年ブロックに分かれ、共通の手立てをもとに実践していくことを確認した。
	・実践内容や研究授業について (ブロック)	○児童の実態や課題、共通の手立て、研究授業の計画について検討。 ・児童の実態や課題、授業実践の方向性を明らかにできた。
5.23	・手立ての共通理解や授業実践について	○主題、副主題の捉え方、共通の手立てについて共通理解を図る。 ・「自分の考えをもつ」「協働的な学び」についての捉え方、共通の手立てになりそうなことを確認した。
6. 6	・授業実践について	○目指す児童像、研究授業の計画について共通理解を図る。 ・低・中・高学年の目指す児童像のつながりが検討された。
6. 20	・指導主事訪問 A	○校内研修の方向性を確認。
6. 27	授 5 年算数 中澤教諭 (学年代表)	○合同な三角形のかき方を考える際に、自力解決した後、ペアで確認する時間を設けたことは、自分の考えをもったり深めたりするために有効であったか。 ・試行錯誤して合同な三角形を個人でかき、その後、ペアの考えに触れることで自分の考えを修正できた。
7. 4	・目指す児童像を達成するための手立てについて (ブロック)	○目指す児童像を達成するための手立てについて検討。 ・授業実践する教科において、目指す児童像を達成するためにどのような手立てが有効となりそうかを明らかにできた。
8.29	指 佐藤教諭 (ブロック代表)	○ブロック代表の授業について検討。 ・授業の流れ、視点や手立てについて検討された。
9. 7	授 6 年算数 佐藤教諭 (ブロック代表)	○三角形の拡大図・縮図を作図する手順をタブレットで撮影して説明させることは、図形のかき方を理解することに有効であったか。 ・自分の考えがもてなかった子ども、他者の考えを聞いてかき方を理解したり、後から再び動画をくり返し見たりして、自分の考えをもてるようになっていた。
9. 12	授 授業研究会 (佐藤教諭)	
9. 15	授 1 年国語 見城教諭 (学年代表)	○会話の役割読みを行ったことは、登場人物の行動を想像させる上で有効であったか。 ・要点を押さえての発問が読み取りの力につながる。言葉の意味を日常生活の活動の中から説明しており、登場人物の行動を想像させることにつながっていた。
10. 3	指 宮沢教諭 (ブロック代表) 指 高宮教諭 (B 訪問)	○授業の方向性や視点について検討する。 ・授業の流れ、視点や手立てについて検討された。
10.14	授 4 年社会 加藤教諭 (学年代表)	○共有ノートを使って、友達と相談しながらまとめたことは、思考を深めるのに有効であったか。 ・グループの友達と相談しながら、カードを4つの視点に分けてい

		た。児童が書いたカードは自助が多かったことから、自助の大切さに気付くことができた。
10.25	授 2年道徳 宮沢教諭 (ブロック代表)	○思考を促す対話的な活動の工夫をしたことは、正しいと思うことをすることのよさに気付く、大切さを考えるのに有効であったか。 ・交流場면을複数回設定したことで、色々な意見に出会うことができ、考えが深まった。
11.7	授 授業研究会(宮沢教諭) 指 高宮教諭(B訪問)	○本時の展開について検討した。 ・めあての捉え方や学習形態、板書内容について共通理解を図った。
11.29	・指導主事訪問B 授 3年社会 高宮教諭	○共有カードを用いて、販売の仕方を整理したり、それらと消費者の願いを関連付けたりしたことは、スーパーマーケットで働く人の仕事の工夫について考えたり表現したりする上で有効であったか。 ・共有カードを用いたことで、児童の思考の流れがよく分かった。進める人と書き込む人が役割分担をしたことで、話し合いになった。 ・理由を説明しながらカードの移動をさせるようにすると、班での気付きがより広がるだろう。
12.12	・研修の成果と課題	○今年度の研修の成果と課題について確認する。 ・成果と今後の課題について共通理解を図ることができた。
1.23	・研修のまとめ	○今年度の研修のあしあとを振り返る。 ・1年の研修を振り返るとともに、個々の実践についてまとめた。
2.3	・来年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○来年度の研修の方向や組織について検討した。 ・来年度の方向性や組織について確認された。
2.20	・来年度の研修について	○来年度の研修の方向性について確認する。 ・来年度の研修の方向性について共通理解を図ることができた。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.25	保健研修	養護教諭	・食物アレルギー、アナフィラキシーについて
5.23	サービス規律研修	管理職	・公務外の非違行為の防止について
	ICT研修	情報主任	・Chromebookやデジタル教科書の使い方について
7.20	サービス規律研修	管理職	・1学期の振り返り及び次学期に向けた改善策
10.3	サービス規律研修	管理職	・ハラスメント(セクハラ・パワハラ)の防止について
11.13	サービス規律研修 特別支援研修	担当教諭 特別支援コーディネーター	・個人情報取り扱いについて ・支援を要する児童への対応について
12.12	サービス規律研修	管理職	・2学期の振り返り及び次学期に向けた改善策
3.13	サービス規律研修	管理職	・3学期の振り返り及び次年度に向けた改善策

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	菅原慶成	教諭	七五三木幸世	教諭	石原偉子
教頭	松原孝志	教諭	下田麻衣	教諭	加藤大禅
教諭	阿部政志	教諭	小熊瑞江	教諭	正田由佳
教諭	林圭子	教諭	佐藤有紗	養護教諭	鶴淵ますみ
教諭	星野修一	教諭	山崎舞乃	養護教諭	内田 蛍
教諭	見城由香	教諭	中澤朋美	総括補佐事務長	小野千代子
教諭	小倉洋子	教諭	腰原茉実	支援員	星野律子
教諭	浅見敏子	教諭	星野裕平	支援員	上野優子
教諭	青木三重子	教諭	加古 孝	支援員	阿部美緒子
教諭	高宮昭子	教諭	角田明大	生活相談員	五十嵐千代美
教諭	宮沢菜穂子	教諭	福岡智子	用務員	星野海斗

# 川 田 小 学 校

所在地 〒378-0024 沼田市下川田町540番地  
電話番号 0278-22-3056 FAX 0278-22-0786  
校長名 内藤 麗子

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

- (1) 基本目標・・・健康で豊かな人間性と生きる力をそなえた児童を育成する。
- (2) 具体目標・・・①かしこい子（学ぶ意欲をもち、しっかり勉強する子）  
②やさしい子（思いやりがあり、友達と協力できる子）  
③たくましい子（明るく、最後まで頑張る子）

### 2 経営方針

#### (1) 学校経営目標

◎学校評価の効果的活用を通して教育課題を組織的・継続的に改善し、子供たちの成長のために教職員が一丸となってよりよい教育活動を行う。

#### (2) 目指す学校像

- ①児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業改善を推進する学校
- ②児童一人一人のよさを認め、温かな人間関係と学校生活に必要な規律を形成する学校
- ③児童の心身の健康を守り、安心・安全な学校生活を保障する学校
- ④教職員が心身ともに健康で、よりよい教育に資するための業務改善を実行する学校
- ⑤家庭・地域とともに、温かく児童を育てる学校

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 学校経営の充実

- ・報告、連絡、相談を徹底し、教職員の縦と横の連携を密にしながら学校組織の活性化と相互の職能成長を図る。
- ・時間を意識した働き方及び服務規律の確保について学校全体で共通の認識をもち、教育活動の質的向上と教職員の健康の保持増進を図る。

#### (2) 確かな学力の育成 【サマースクール沼田】

- ・学習規律を定着させて学級全体の学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組ませる。
- ・各教科等の授業づくりにおいて、「見方・考え方」を踏まえて本時の目標を設定するとともに、問題解決的な学習過程を確実に実施することで、単元（題材）を通して育成する資質・能力を効果的に育む。
- ・指導のねらいを踏まえて一人一台端末を活用する場面を吟味し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・振り返り学習や家庭学習に計画的に取り組ませ、基礎的・基本的な事項を定着させる。

#### (3) 豊かな心の育成 【児童生徒の命を守り、育てる教育】【家族で本を読みましよう】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・教職員がそれぞれの立場で児童理解を深めるとともに、生徒指導の三つの機能（自己存在感、共感的な人間関係、自己決定）を基盤とした一貫性のある指導を通して、一人一人の自己指導能力を培う。
- ・挨拶、言葉遣い、きまりの遵守など、他者と協働してよりよい生活を築く上で必要な規律や考え方、望ましい行動様式を身に付けさせる。
- ・特別の教科道徳の充実に向けて、児童がねらいとする道徳的価値の理解を基に、多面的・多角的に考えることを視点として授業を工夫・改善する。
- ・朝読書や読み聞かせ、親子読書を通して様々な本に親しませ、豊かな感性を育成する。
- ・明確なねらいのもとに、地域の人・もの・ことを取り入れた学習や体験活動を充実させる。

#### (4) 健やかな体の育成 【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

- ・新型コロナウイルス感染予防策として、「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を徹底する。
- ・生活リズムチェックカードや川田小SNSルールを活用し、家庭と連携しながら食生活の改善やメディアに依存しない生活習慣の確立を図る。
- ・教科体育や川小カップにおいて、運動に親しませながら、基本的な動きや技能の定着を図る。
- ・避難訓練の実効性を高め、児童の危機回避能力と、教職員の危機管理体制を向上させる。

#### (5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通実践する。
- ・保護者との情報共有や関係機関との連携に努め、一貫した方針で切れ目のない支援を行う。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的に学習に取り組む児童の育成  
副主題 ～算数科を中心とした ICT の効果的な活用を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・授業に真面目に取り組む児童が多いが、主体的に学ぶこと（積極的に取り組むとともに、自らの学習状況を把握して調整しながら学ぶこと）に課題が見られる。
- ・自分の考えを、筋道立てて分かりやすく説明することに苦手意識が見られる。
- ・互いの考えを交流する活動を通して、考えを深めたり広げたりすることが十分にできているとは言えない。

#### 指導の在り方との関わり

- ・授業の後半（交流→まとめ→振り返り）の活動時間を十分に確保し、学習したことの価値や楽しさを実感させる必要がある。
- ・数学的な表現を用いて説明する活動や、交流の視点を明確にして考えを練り上げる活動を意図的・計画的に行う必要がある。
- ・ICT を日常的に活用している一方で、資質・能力の育成に向けた効果的な活用についてはさらに検討する必要がある。

### 2 研修の内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 数学的活動の楽しさに気付き、進んで学習に取り組む子

【中学年】 数学的活動の楽しさやよさに気付き、進んで学習に取り組む子

【高学年】 数学的活動の楽しさやよさに気付き、進んで学習に取り組み学びを深める子

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・問題解決的な学習における各過程を、一連の流れとして確実に実施する。
- ・指導のねらいを明確にして ICT を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・互いの考えを比較・検討し、自分と違う考え方を試したり、自分の考えをよりよいものに改めたりする活動を意図的・計画的に積み上げる。

### 3 研修計画・経過報告（次ページ）

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・これまで本校で進めてきた板書の構造化に ICT を加えるベストミックスを意識し、授業を行うことで、児童に学習内容を深めさせることができた。
- ・授業の後半（交流→まとめ→振り返り）の活動時間を十分に確保し、学びを自覚させたことで、学習の楽しさや大切さを感じ、粘り強く取り組むことができる児童が増えた。
- ・指導のねらいを明確にして ICT を活用し、いろいろな考えを比較・検討させたことで、自分の考えを深め、学んだことを使って振り返りの問題を解くことができる児童が増えた。
- ・授業作りや ICT 活用等について学び合う場として、ミニ研修を定期的実施したことは、実践的知識や指導技術の共有と、職員の同僚性の向上に結び付いた。

#### ○課題

- ・集団解決の場面で、ねらいに結び付く深い話合いが十分にできていないことがある。
- ・自分の考えを分かりやすく伝えることができていないと感じている児童が一定数見られる。（「算数の授業に関するアンケート」結果より）

#### ○課題解決に向けた今後の取組

- ・比較・検討場面で、話合いの視点を示すとともに、児童の理解を深めるための適切な発問・問い返しができるよう、授業を構想する。
- ・数学的な表現を意識させ、ペアで互いに説明させたり、同じ考え方でも複数の児童に説明させたりする活動を繰り返し、分かりやすく伝える力を身に付けさせていく。

3 研修計画

指は指導案検討 授は研究授業・授業検討会

月日	研修計画 [内容]	研修報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.18	本年度の研修について (1)	○研修主題・内容・方法について ・昨年度までの取組及び今年度の研修の方向性を確認し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化等について共通理解した。
5.23	本年度の研修について (2)	○児童の実態や課題の原因の分析 ・昨年度の成果と課題を踏まえ、児童の実態と課題を分析し、今年度の共通実践の手立て等を確認した。
	指指導主事訪問 A 指導案について①	○指導案の形式について ・児童の主体性を養うために、問題解決的な学習における各過程を工夫し、指導案に反映させていくこと、まとめ・振り返りの時間を十分確保することを確認した。
5.30	4年算数 模擬授業 (飯野教諭)	○問題解決的な学習及びICT 端末を使った授業について ・模擬授業を通して、問題解決的な学習の流れ及び、ICT 端末の使い方について共通理解した。
6.13	指指導主事訪問 A 指導案について②  校長講義	○授業の流れ及びICT 活用場面の紹介 ・各授業における問題解決的な学習の流れ、ICT をどの場面でどのように使うかについて、情報交換した。 ○「分かる授業の実現に向けて」 ・授業作りの要点を共通理解した。
6.22	指導主事訪問 A	○校内研修の内容・方法について指導を受け、今後の方向性を明確にした。
6.27	A 訪問の情報交換 一人一授業について	○A 訪問の各授業における指導内容の共有 ○一人一授業の進め方の確認 ・低・中・高の学年ブロックで各授業の実施時期や単元について検討した。
8.29	指指導主事訪問 B 指導案検討 (1) ICT を活用した授業紹介	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・問題解決的な学習の流れ、ICT 端末の活用方法を検討した。 ○研究指定校 (高山小学校) の実践例の共有 ・公開授業の報告及び、はばプラII ICT 活用 Version の確認をした。
9.26	指指導主事訪問 B 指導案検討 (2)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・課題を追究する場面の流れや方法について検討した。
9.30	授6年算数 「円の面積の求め方を考えよう」(小野教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・自力解決をコンパクトにするためには、見通しのもたせ方が重要であることを確認した。
10.11	授1年算数 「3つのかずのけいさん」(林教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・ねらいを具体化することで、必要な手立てや支援が見え、ぶれのない授業をおこなうことができることを確認した。
10.24	授4年算数 「計算のやくそくを調べよう」(飯野教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・交流場面で説明のポイントを提示することが、互いの考えを共有する上で有効であることを確認した。
11.1	授指導主事訪問 B 3年算数 「数の表し方やしくみを調べよう」(後藤教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・身に付けさせたい力を獲得させるために必要な学習活動を精選し、児童の思考の流れを想定しながら各学習過程の時間配分を設定しておくことが大切であることを確認した。 ・他者と協働して問題解決するために、考えるための技法を意識することが重要であることを確認した。
11.14	授川田っこ2算数 1年「ひきざん」 3年「重さをはかって表そう」 5年「分数のたし算とひき算を広げよう」(高橋教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・特別支援学級では、ICT を活用することにより、個に応じた学習がより効果的にできることを確認した。
11.17	授2年算数 「新しい計算を考えよう」(渡根木教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICT の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・考えるための技法を用いて児童が効果的に思考することができるようにするとともに、考える視点を明確に示し、深い学びにつなげることが重要であることを確認した。



11.28	授5年理科 「物のとけ方」(小幡教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・話型を提示することが、自分の考えを筋道立てて分かりやすく説明させる上で有効であることを確認した。 ・考えるための技法を意識すること、児童に相手意識をもって考えを伝えさせることが、深い学びにつながることを確認した。
12.6	授3年体育 「ラインサッカー」(吉澤教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・しっかりとした学習規律と、めあての明示により、児童が主体的に活動に取り組むことができることを確認した。 ・ロイロノートの新しい活用方法を共有した。
1.23	授5年算数 「比べ方を考えよう」(阿部教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・見通しをしっかりとめ、個への支援を確実に行うことで、自分の考えをもち、意欲的に発表する児童が増えることを確認した。 ・比較・検討場面において、適切な発問・問い返しをすることが、深い学びに結びつけるために有効であることを確認した。 ・授業における共感的な人間関係が、主体的に取り組む児童の育成のための土台となるということを共通理解した。
1.30	授川田っこ1算数 1年「おおきいかず」2年「長さの単位」 3年「かけ算の筆算」(秋元教諭)	○問題解決的な学習の流れ、ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、比較・検討場面の工夫 ・授業検討会を通して、成果、課題、改善点等を明らかにする。
	ICTを活用した授業紹介	○研究指定校(沼田小学校)の実践例の共有
2.20	研修のまとめと次年度の研修について	○今年度の総括と次年度の方向性

※学期末に児童にアンケートを行い、研修を通して成果と課題を明確化した。

※上記研修の他に、金曜日の放課後にミニ研修を行い、職員の資質向上を図った。

#### 〈ミニ研修の主な内容〉

ロイロノートの使い方	meetの使い方について
classroomへの登録方法及びデジタル教科書の使い方	全国学力学習状況調査の分析
男女混合名簿の導入に伴う指導要録の入れ替えと記入方法	アンケート結果について改善策の検討
心肺蘇生法の流れ	Googleドライブの活用方法について
プール管理の方法、機械操作等	危機管理マニュアルの確認
ICT活用場面の紹介	漢字・計算コンテストに係る指導の留意点について
外国語科と外国語活動の違い、指導のポイント	人権教育の充実に向けて、重要課題についての理解
生徒指導について	研究指定校の実践例の共有
サービスについて	特別な支援を要する児童への対応、各種検査について
エピペンの使い方について	CRT標準学力検査の分析

#### 〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名
校長	内藤 麗子	教諭	後藤 勇世
教頭	近藤 薫	〃	渡根木 星花
教諭	小幡 操	〃	吉澤 早紀
〃	秋元 葉子	養護教諭	小林 真奈美
〃	高橋 富士夫	事務主事	山田 徳子
〃	阿部 貞治	学校教育支援員	小野 輝美
〃	飯野 みさほ	小学校生活相談員	清水 幸子
〃	林 美鈴	用務員	渡邊 道明
〃	小野 彩乃	運転手	本多 昌一

# 白 沢 小 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平94番地1

電話番号 0278-53-2151 FAX 53-3860

校長名 下田 一貴

## I 学校の経営

- 1 学校の教育目標
- よく勉強する子
  - 思いやりのある子
  - ねばり強い子

## 2 経営方針

- (1) 【学力向上のために】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「めあて」の提示と振り返り「ユニバーサルデザイン」「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業改善の推進
- (2) 【豊かな人間性の育成のために】自己肯定感と自己有用感を醸成する、生徒指導・人権教育・道徳教育の充実
- (3) 【健康・安全のために】自己の健康や安全に関心を高め、課題意識をもって取り組む健康教育・安全教育の推進
- (4) 「チーム白小」で、変化にしなやかに対応する学校組織力の向上
- (5) 家庭・地域・保育園・中学校と連携・協働し、開かれた学校づくりの推進

## 3 本年度の重点施策

### (1) 学力向上

【教職員の資質向上】

- ・分かりやすい授業と徹底した繰り返し指導による基礎・基本の徹底
- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成
- ・単元・題材のデザインの工夫による、「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・めあて・見通し・振り返りの充実による、学びに向かう力の育成
- ・教室環境と学びのユニバーサルデザイン化による学習環境の整備充実

### (2) 豊かな人間性

- ・積極的な生徒児童と、基本的生活習慣の「当たり前」指導（5S＝整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 【沼田市 SNS ルール】 【家族で本を読みましよう】
- ・教育活動全体における人権が尊重される環境づくりといじめを許さない学校・学級の雰囲気づくり
- ・カリキュラム・教材・指導の工夫による、道徳的実践力の育成 【道徳教育の充実】
- ・学年・学級経営の充実による、望ましい人間関係力の育成

### (3) 健康・安全

- ・運動の楽しさや喜びを味わわせる体育授業や体力向上活動の工夫
- ・自己の健康への関心を高め、課題をもって取り組む健康教育の推進 【命を守り育てる教育】
- ・自他の生命尊重し、自ら安全な生活を営むことのできる安全教育と安全管理の徹底
- ・交通安全・不審者対応等、地域や関係機関と連携した取組の推進 【セイフティ沼田】

### (4) 家庭・地域・保小中連携・協働

- ・「学校支援センター結いんぐ・地域ボランティア」の充実 【幼小中連携】
- ・学校と家庭・地域を繋ぐ「学校・学年・学級だより」・HPの充実と Home & school の活用

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら考え、共に学び合い、いかす児童の育成

副主題 ～ICTを活用した個別最適な学習と協働的な学びの一体化を目指す学習の工夫を通して～

児童の実態との関わり

- ・算数科を中心に、タブレットのロイロノートを個別学習で活用してきたことにより、1人1台タブレット端末を使い、自ら考える個別最適な学びができるようになってきた。
- ・昨年度はタブレットに慣れることも目的の一つだったため、今年度は協働的な学びに結び付ける使い方が必要である。
- ・語彙力が低いために、「自分の考えの確かな表現や伝え方」に苦手意識がある。
- ・自分の考えと友達の考えを比較し、そこからよりよい考えにしていこうとする児童が少ない。

指導の在り方との関わり

- ・国語科と算数科を中心に各教科において、教科の特性や児童の発達段階に応じた単元及び単位時間の学習過程の充実を図る。
- ・問題解決的な学習過程のどこで、どのようにICTを活用していくかやどんな場面で活用すると効果的であるかを模索していく。
- ・今年度は、児童のICT活用における研究の第2次として、国語科での実践を進める。
- ・個別最適な学習から協働的な学びを通して、他教科の協働的な学びへの効果を模索していくことで「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を進め、児童の確かな学力を育成する。
- ・全学年で、学力の底上げを図る。

### 2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】自分の考えをもち、友達の考えを聞いて同じところに気付くことができる児童

【中学年】自分の考えをもち、友達の考えと比べて自分の考えとの違いに気付くことができる児童

【高学年】自分の考えや根拠をもち、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・児童が問題解決的な学習過程においてICTを活用することで、個別最適な学びから協働的な学びへのステップが実現できるように工夫した授業実践を行う。
- ・「白沢小学校における対話スキル向上のイメージ」をもとに、「深い学びに到達した姿」を定義付け、共有する。単元ごとの「深い学びに到達した姿」を明確にもつ。
- ・「はばプラⅡ」と「はばプラⅡICTver.」をもとに、単元計画の中に「話し合い活動」「体験的な活動」「振り返り活動」などの「具体的な内容」を位置付け、児童の変容をイメージした授業実践をする。
- ・昨年度は、本時の復習時間となるような宿題の出し方を工夫したので、今年度も復習時間を充実させる。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果：ロイロノートの提出箱の共有機能や思考ツールを使い、協働的な学びができつつある。

○課題：学習規律や協働的な学びの時間配分不足による気付きや深まりが不十分である。

○今後の取組：今年度の本テーマを2次とし、今後、意見交流など深い学びにつなげていきたい。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 成 は、成果 課 は、課題

月日	研修計画 [内容]	経過報告[○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.11	・今年度の研修について	○研修内容の共通理解 ○テーマ・サブテーマの決定
5.9	・要請訪問Aについて	○研究授業(一人一授業、A訪問)、指導案の様式及び質問事項等
5.26	授 (部会)研究授業① ・成果と課題	三浦教諭 (5年生:理科) 成: WEB カード活用による時間の有効利用ができていた。 蓄積による評価への活用がしやすい。 課: キーボード入力 of 個人差への対応。 作業時間と考える時間の確保。
6.6	・指導主事要請訪問A	○訪問指導内容についての共通理解
6.20	・研究授業実施について	○研究授業についての共通理解、C&S調査について
7.11	・要請訪問Bについて	○授業者検討
夏休中	* 自主研修	○授業実践に向けた指導案作成とその検討 ○B訪問に向け、研修
9.12	指 B訪問指導案検討	○授業者による授業説明 ○ICT活用場面と手立ての方法と有効性について
9.28	〃	○B訪問指導案検討
9.30	授 (部会)研究授業② ・成果と課題	生方教諭 (3年生:道徳) 成: マトリックス型チャート図を使った心情表現がしやすかった。 提出箱を活用した自己表現ができていた。 課: 意見集約後の意見交流の実施。 デジタルツール活用のタイミング。
10.3	授 (部会)研究授業③ ・成果と課題	星野教諭 (6年生:国語) 成: デジタル教材とアナログ教材の使い分けがよかった。 観点によるテキストの色分けが見やすかった。 課: 「個→ペア→全体」を行うための時間確保。 回答共有機能とコピー機能などの使わせ方。
10.3	指 B訪問指導案最終確認	○B訪問指導案検討、共通理解、役割分担、準備
10.4	授 (部会)研究授業④ ・成果と課題	松井教諭 (5年生:算数) 成: 班で複数台のタブレットを使い多くの情報を共有できた。 アナログ作業と写真での結果共有で時間短縮になった。 課: 作業に関する説明の提示の工夫。 タブレットとワークシートの活用の工夫。
10.13	授 指導主事要請訪問B	授業者: 鯉淵教諭 (4年生:国語) 成: 必要感のある授業デザインにより、本単元でのICT活用が有効であった。 単元構成が工夫されており、一単位時間ごとの「めあて」が明確であったことで、児童が要約のコツをつかみ学習を見通すことができていた。 ロイロノートを中心としたICTの活用が、個別最適と協働的な学びをつないでいた。 課: 原稿用紙の使い方などの基本的内容の確認や思考を深める問い返しなどの発問の工夫。 反転学習で家庭学習からつなげていく方法の検討。
10.17	・B訪問の成果と課題	○これまでの取組の成果と課題の明確化
10.31	授 (部会)研究授業⑤ ・成果と課題	吉野教諭 (3年わかば:国語) 成: ロイロノートのカードの機能を駆使した飽きさせない工夫。 3Aの児童との交流は、友達作品と顔写真を合わせて画面に提示することで臨場感(一体感)を与えることができた。 課: 児童がもっと手を動かして、自分でカードを並び替えるなど、何が修飾語なのかを意識させる場面の設定。 タブレット操作への支援。

11.7	・一人一授業成果と課題	○公開授業の成果と課題の共通理解、ICT 研修
11.9	授 (部会) 研究授業⑥ ・成果と課題	高橋教諭 (6年ひまわり：国語) 成：主語と述語を白いカードに書き、付け足す言葉を黄色いカードに書くようにしたため、付け足しの言葉を明確に意識することができた。 課：児童により言葉を書いたカードを並べ変えて文を作る活動の取り入れ方。
11.22	授 (部会) 研究授業⑦ ・成果と課題	鈴木教諭 (2年生：算数) 成：教師が子どもの考えを撮影し画面共有することは、2年生の実態に合っていた。また、板書に残すことで、振り返りができていた。 課：「かけられる数」「かける数」などの乗法のきまりの定着。言葉から具体物への理解のさせ方。
12.8	授 (部会) 研究授業⑧ ・成果と課題	清水教諭 (5年生：体育) 成：大型モニターでの手本の動画やポイントの確認・遅延再生の活用が効果的であった。 前時と本時の動画を見比べたことで考察がしやすかった。 課：音声入力による時間短縮。
12.14	授 (部会) 研究授業⑨ ・成果と課題	青木教諭 (1年生：国語) 成：タブレットに興味をもって授業に集中していた。1年生からタブレットの使い方に慣れておくことは今後の学習に生きる。 課：画面上で写真に直接文字を書くことができる機能の活用。児童の意見や発表を共有するためのタブレットの活用。
12.22	授 (部会) 研究授業⑩ ・成果と課題	小田橋教諭 (1年つくし：算数) 成：量る、持ってみる、タブレット画面を見るなどの変化があったため飽きることがなかった。 課：必然性のあるタブレット利用の設定。 量る物を手に取る前にタブレット上で予想させる活用の場の設定。
2.6	・一人一授業成果と課題 ・今年度のまとめ	○公開授業の成果と課題の共通理解 ○来年度の研修主題や研修内容の検討、C&S調査について、CRTの分析
3.13	・次年度に向けて	○来年度の研修主題や研修内容の仮決定

\*資質向上研修

月日	区分	担当	内容
4.25 ～	初任者研修 メンター研修	メンターチームリーダー 担当職員	○生徒指導、生活指導、学習指導等の疑問等への心構えやポイント研修
5.26	ICT機器研修	情報主任	○ロイロノート活用
6.20	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 1回目
	特別支援研修	特支担当	○ミニ特支研修
11.7	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 2回目
2.6	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 3回目

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	下田 一 貴	教諭	鯉 渕 佑 委	教諭	清 水 健 一 朗
教頭	井 熊 美 保	教諭	松 井 太 郎	養護教諭	加 藤 俊 子
教諭	三 浦 武 夫	教諭	星 野 美 千 枝	主幹事務長	原 澤 修
教諭	青 木 奈 津 江	教諭	吉 野 泰 広	支援員	鈴 木 ゆ かり
教諭	鈴 木 詩 生	教諭	高 橋 栄 一	生活相談員	河 野 君 代
教諭	生 方 穂 乃 香	教諭	小 田 橋 恵 子	用務員	村 瀬 京 一

# 利根小学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝93番地  
電話番号 0278-25-8172 FAX 0278-56-2221  
校長名 小野里 慶博

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

基本目標：確かな学力と、豊かな心を持ち、ねばり強さと郷土を愛する精神に富む、心身ともに健全な児童を育成する。

具体目標：**知** 進んで学習する子 **徳** 思いやりのある子 **体** ねばり強くがんばる子

### 2 経営方針

スローガン：気づき 考え 実行し 一人一人の輝く笑顔 元気あふれる利根小学校

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力・問題解決力の育成
- (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成
- (3) 健康・食育・安全の知識や技能の習得と実践力の育成
- (4) 家庭や地域社会と連携・協働し、安心・安全、保護者や地域から信頼される学校づくり

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力・問題解決力の育成

- ① 学習ルールの徹底と教科の特性を踏まえた指導を通し、自主的・主体的な学習態度の育成
- ② 育成する力やねらいの明確化と、「めあて」「見通し」「振り返り」「ともに考え、深める場」を意識した授業作り
- ③ 「ふしぎ・できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
- ④ 一人一台端末等のICTを効果的に活用した、分かる授業の展開

#### (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成

- ① 思いやりにあふれるよりよい人間関係が築ける学級・学年・学校づくり
- ② 「考え、議論する」道徳科への授業改善による道徳的判断力・心情・実践意欲の向上
- ③ 一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の充実と個のよさを認め励まし、自己有用感を高める学校づくり

#### (3) 健康・食育・安全の知識や技能の習得と実践力の育成

- ① 家庭と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」の推進と「利根小よい子の一日」、「利根小 SNS ルール」等を活用した規則正しく、規律正しい生活習慣の育成
- ② 特別支援教育と生徒指導、教育相談の関連性の重視と職員の共通理解の深化、SCや外部関係機関との連携の推進の推進
- ③ 体力向上プランを活用した体力の増進と運動能力の育成

#### (4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

- ① 家庭や地域と連携・協働した学校作り
- ② 学校安全計画や危機管理マニュアルを基にした安全指導による、児童の安全・安心の確保

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自分の考えを豊かに表現できる児童の育成

副主題 ～算数科における見方・考え方を基に考える活動の工夫を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・自分の考えを具体的に説明したり、自分と他の考えの違いを捉え、自分の考えを適切に修正したり広げたり深めたりする力が弱い。
- ・図や資料、ICT 器機を用いて考えを説明したり表現したりする力に課題がある。

#### 指導の在り方との関わり

- ・見方・考え方に気付かせたり深めたりする意図的な発問、考えを深める発表の場の時間を確保する必要がある。
- ・学年の発達段階に応じた図や資料、ICT を用いて「見方・考え方」を働かせ、説明したり表現したりする活動を充実させる必要がある。
- ・ICT を活用した指導力向上を図る。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】 課題について、既習事項を基に具体物や図を用いて考え、自分なりの考えを分かりやすく伝え、他の考えのよさに気付くことのできる児童。
- 【中学年】 課題について、既習事項と関連付けて図や資料を用いて考え、根拠を明確にして相手に伝え、他の考えのよさを取り入れて考えを広げることのできる児童。
- 【高学年】 課題について、既習事項を生かして図や資料を用いて考え、筋道立てて相手に伝え、他の考えのよさを取り入れて考えを広げ深めることのできる児童。。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・単元や単位時間に用いる見方・考え方を明確にして単元構想・一単位時間の授業構想を練る。
- ・言葉、図、資料、ICT を用いて考えをもたせたり伝えたりするための指導法の共通理解を図る。
- ・根拠を明確にして考える時間を意図的に設けたり、考えを全体で共有する際の発問を工夫したりして、個々の考えを練り上げ、思考を深める授業展開を工夫する。
- ・全職員がねらいに沿って研修を進められるように共通理解を図り、ICT 機器の効果的な活用や考えを視覚化するなどの活動を工夫して、研修の積み上げを図る。

### 3 研修計画・経過報告 〈次ページ〉

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・一人1台端末を活用した学びの場が増え、児童間の考えの共有や教師の見取りがやりやすくなった。
- ・教師間で単位時間の基本的な流れを共通理解し実践することで、対話的・協同的に学ぶ授業展開が構築でき、児童の図や資料、ICT 器機を用いて考えを表現する力が伸びている。

#### ○課題

- ・自力解決での考えをグループや全体の場で説明できる児童に偏りがある。
- ・説明的活動を充実させるとまとめや振り返りの時間がとれなくなりがちになる。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・発達段階に応じた、相手に伝わる表現の仕方を児童に習得させていくことで、話し合いで全員が発言する機会をもたせ、考えを共有して表現する場を確保するなどの対話的活動を充実させる。

3 研修計画・経過報告

授：研究授業

研：授業研究会

指：指導案検討

月日	内 容		○ 研修の視点 ・明らかになったこと
4. 18 4. 26 5. 30	・研修計画の検討		○テーマ・サブテーマの決定、「目指す児童像」の検討 ○研修内容についての共通理解と一人1授業の計画 ○算数科における基礎研究（1単位時間の学習過程） ○「はばたく群馬の指導プランⅡ」ICT活用 Version の活用
6. 20	・研究推進に向けた情報交換		○言葉、図、資料、ICT を用いて考えをもたせたり伝えたりするための指導法の共通理解と一人1授業実践の進め方
6. 28	・指導主事A訪問		○各教科での実践、指導主事による指導助言
7. 11	授① 3年算数 「あまりのあるわり算」	7. 4 授丸山教諭 7. 5 研	○問題場面によって余りの処理の仕方が異なることを図や半具体物で考えさせ、理由を明確にして説明する。 ・余りの処理の仕方によって問題を3種に分け、色カードで提示して問題の答え方が違うことを意識付けられた。 ・考えが2つに分かれた場合、答えを示して理由に焦点を当て話し合わせると効率的だった。
	・研修の方向性		○授業研究会の進め方と授業の視点について
8. 24	指① 指導案検討		○B訪問へ向けての共通理解（授業構想、研修主題との関連）
9. 9	授② 5年算数 「三角形と四角形の角」	授石田教諭 研	○三角形の内角の和を基にして四角形の内角の和の求め方を考え説明する。 ・ロイロノートを用いて図を基にグループや全体で考えを共有できた。 ・大事なところは板書に残したり、良い考えは画面に残したりするなど視覚的、効果的な提示を考える。
9. 21	指② 指導案検討		・児童の実態を反映させた活動とグループ協議の工夫
10. 17	・B訪問に向けて		・B訪問最終確認、役割分担等
10. 18 指導主事訪問B	授⑤ 4年算数 「がい数の使い方と表し方」	授石原教諭 研	○概数を用いて、目的に応じた和の見積り方の仕方を説明する。 ・ロイロノートの共有機能を用いて、グループごとの課題について見積り方の仕方を意見交流し、考えをまとめることができた。 ・自力解決で個々の考えをしっかりと持たせた上で、グループで意見交流させる。教師は問い返しの支援をしながら考えを深めさせ、全体交流の場で児童の考えを生かす。
10. 31	授③ 4年特支算数 「がい数の使い方と表し方」	9. 22 授大関教諭	○買い物の場面を想定し、目的に合わせて、概数の使い方と表し方を考える。
		9. 30 研	・買い物活動という身近な場面を用いたことで、児童がよく考え、目的に合わせて概数処理、概算をしていた。この場面で四捨五入ではいけない理由も理解できた。 ・ワークシートを見せ合って説明し合う活動を設定するとよい。
	授④ 6年算数	10. 4 授土井教諭	○多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明する。



	「円の面積」 研		<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的に図形を提示して児童の考えを多角的に引き出す発問で、児童が多様な考えを説明し合う活動が十分に行えた。</li> <li>・時間配分を考え、適用問題に取り組みさせる。</li> </ul>
	・B訪問のまとめ		・指導助言をふまえた今後の研修の方向性
11.21	授⑥ 2年算数 「かけ算(1)」 研	10.27 授渡辺教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かけ算の身近な問題場面について、画像を基に図や式に表し、言葉で説明し合う。</li> <li>・ジグソー型の交流活動を設定し、ロイロノートを用いて児童が自分なりに考えを表し、複数回説明し合うことができた。</li> <li>・グループでの話し合いの目的や説明の仕方の具体的な支援を行い、問い返しをしながら「一つ分」「いくつ分」を意識づける。</li> </ul>
	授⑦ 1年算数 「ひきざん」 研	11.11 授中里教諭	○繰り下がりのひき算で、減加法の他に減々法があることに気づき、ブロック操作や図、言葉で説明することができる。
		11.15 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物の操作を撮影した動画や既習事項の掲示物の提示がヒントとなり、児童が順序立てて式や言葉に表して説明できた。</li> <li>・ブロック操作を十分にさせて減加法と減々法との違いを捉えさせた上で、図や言葉に表したり、友だちに説明させたりする。</li> </ul>
12.12	授⑧ 4年理科 「物の体積と温度」 研	11.21 授入澤教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○金属を熱した時の体積変化を実験の結果から考察し、空気や水を熱した時と比較して共通点や相違点を考えることができる。</li> <li>・学習過程が明確で、実験の手順やガスコンロの使い方を視覚的に提示できた。空気と水との比較を通してまとめができた。</li> <li>・班で話し合う時間を確保するために、ガスコンロの使い方や予想を前時に行う。</li> </ul>
1.23	研修の成果とまとめ		○研修の成果と課題、改善点について
1.25	授⑨ 5年特支 算数 「比べ方を考えよう」 研	授小倉教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口密度について知り、その求め方を確かめて、いろいろな場合の人口密度を求める。</li> <li>・身近な場면을想起させ、人口密度のイメージを理解させる。</li> </ul>
2.13	次年度に向けての検討		○次年度に向けての方向性の検討
3.6	学力検査結果考察		○CRT学力検査の結果について校内研修の視点で検討

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名
校長	小野里 慶博	教諭	渡辺 訓史
教頭	佐々木真由美	〃	入澤 浩史
教諭	丸山 みのり	〃	小倉 勲大
〃	石原 博子	養護教諭	鈴木 梓
〃	土井 智穂	栄養教諭	遠藤 まみ
〃	大関 久美子	オンライン学習サポーター	亀山 秀治
〃	石田 真規	主幹事務長	星野 郁史
〃	中里 美穂	用務員	柳 恵美子

# 多 那 小 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732  
電話番号 0278-53-2919 FAX 53-3199  
校長名 田部井 由美子

## I 学校の経営

- 1 学校教育目標 【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子  
【具体目標】○よく学ぶ子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)

## 2 経営方針

- (1) 経営目標 小・中全教職員の経営参画(チームたな)による組織の活性化を図る  
(2) 目指す学校像 ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校(チームたな)  
(3) 目指す教師像 小・中学校の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心を持ち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

## 3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成 【 】は沼田市独自施策との関係

- ①小中9年間の学びの連続性を意識した学習指導の実施
- ②教員の専門性や特性をいかした教科担当制による学力向上、小中相互乗り入れ型教科指導の充実
- ③問題解決的な単元構想の工夫(学習の見通し・めあての提示と振り返り)
- ④基礎・基本の定着(定期的な放課後学習、家庭と連携した家庭学習の習慣化と定着)
- ⑤校内研修の充実(小中完全融合型の組織活動)による教師の指導力の向上
- ⑥特別支援教育の充実(一人一人の実態やニーズに即した小中連携による指導・支援、職員研修)

## (2) 豊かな心の育成

- ①考え議論する道徳での命の大切さの繰り返し指導【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- ②全ての教育活動における自己肯定感・自己有用感を育てる意図的指導(褒め認める)
- ③人権教育・特別支援教育の充実による、児童生徒の心のバリアフリーの育成
- ④信頼関係を基盤にした生徒指導の推進と沼田市SNSルール改善・充実【みんなで守り、みんなを守る「沼田市SNSルール」】
- ⑤家庭等と連携した読書活動の推進(親子読書の充実)【家族で本を読みましよう】

## (3) 健康の保持増進と安全の確保

- ①児童生徒の健康と安全を第一に考えた、全教育課程における感染症予防対策の徹底
- ②各種緊急時避難訓練等の安全指導の推進【セイフティ沼田】

## (4) 家庭・地域との連携・協働

- ①地域と連携、協働した取組による教育活動の充実【沼田(多那)大好き!ふるさと学習】
- ②学校支援センターの機能の充実と教育課程の改善

## (5) 組織マネジメントの充実と職能の向上

- ①報告・連絡・相談+記録の徹底、全職員参画のPDCAによる学校課題の解決
- ②業務改善の推進(小中一貫の視点による分掌の工夫・改善、C4hの活用による会議等の時間短縮)
- ③服務規律確保に関わる組織や取組の見直し

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～ 研 修 主 題 ～

「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」  
—協働的な学びをより充実させるための工夫を通して—

#### 児童生徒の実態との関わり

- ・ICTを活用し、意見交流することによって、多様な観点から考えを広げられるようになってきた。
- ・考えを発表することに満足してしまう様子が見られ、考えを広げたり深めたりする視点からの質問や発言をできる児童生徒は少ない。新たな考えを創造したり、他者と協働しながら課題の解決や目標の達成に向かったりすることには課題が残る。

#### 指導の在り方との関わり

- ・考えを深める場の設定（活動場面・ICTツール・時間・提示する資料）を工夫して授業実践を行う。
- ・多様な考えをもつ他者と交流し、自己の考えを深めたり、新たな考えを創造したりできる手立て（発問、問い返し、板書、ワークシート）を工夫して授業実践を行う。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】 友達や教師と関わり合い、探求的な学習をしたり、考えを交流させたりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
- 【高学年】 他者と関わり合い、探求的な学習をしたり、根拠を示して考えを交流させたりしながら、考えを広げ深めたり、よりよい考えをつくったりすることができる。
- 【中学生】 積極的に多様な他者と関わり合い、探求的な学習をしたり、考えを交流させたりして、幅広く比較・検討することで、考えを広げ深めたり、創造したりすることができる。

#### (2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業で多様な他者と意見を効果的に交流させる場を設定する。
- ・協働的な学びをさらに充実させるために、提示資料やICTツールや活動時間など、考える場の設定を工夫したり、考えを深めたりするための教師の発問や問い返し、板書やワークシートなどの教師の手立ての工夫をしたりした授業実践を行う。

### 3 研修計画・経過報告 次ページ

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・各学年の発達段階や教科の特質に応じて、自分と異なる他者の考えやよさを理解しようとする姿が見られ、ねらいにそった思考の広がりや深まりが見られるようになった。

#### ○課題

- ・合意形成や新たな考えを創造する経験を重ねて、協働的な学びの面白さやよさに気付かせたい。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、質問に答えたりして、活発に考えを交流させるためには、語彙力や表現力など話し合うための知識や技能の向上がさらに必要である。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・協働的な学びの面白さやよさに気付くために、他校との交流や外部発信、異学年交流などの伝える活動や様々な他者との交流の場の設定を工夫して、児童生徒のアウトプットを重視した活動を充実させていく。
- ・協働的な学びやアウトプットの場面の設定を重視した単元構想を練る。
- ・児童生徒が見通しをもって解決に向かえるよう、時間配分や学習形態、個別最適な学びを工夫して協働的な学びの充実につなげていく。
- ・思考を広げたり、深めたりできるように、児童生徒同士で積極的に質問をしたり、感想を伝え合ったりさせる。

3 研修計画・経過報告 (全:全体会 班:班別協議 校:校種別部会)

月日	研修の内容	経過報告 (○研修の視点・明らかになったこと)
4/11	全①・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について
4/18	全②・校内研究授業について 校①・目指す児童生徒像の検討 班①・研修グループ計画作り	○授業実践の計画 ○目指す児童生徒像の検討 ○1人1授業の計画立て
5/23	全③・指導案形式、授業研究会 班②・宮内教諭、大河原教諭の指導案検討	○1人1授業の指導案形式について ・授業の視点、学習課程の協働的な学びについて ○授業研究会の持ち方について ・ジャムボードを使った研究会の進め方
5/20	指導主事訪問A	
5/23	授業実践 中1 社会科 宮内教諭 「世界各地の衣食住の変化」	○共通点と違いを調べ意見交流する工夫 ・共通点と違いという視点はわかりやすく、話し合いも活発に行えた。個別に調べる時間にどうしても個人差が出てしまうので、調べる数を見直す必要がある。
5/30	小5 算数 大河原教諭 「小数のかけ算」	○意見交流によって、帰納的に考えを深める工夫 ・友達の発表を見ることで自己の考えに確信を得ることができた。ペア学習にしたり、数の設定を制限したりする工夫が必要である。
6/13	全④・成果と課題の記録について ・B訪問の授業について	○研究会後の報告、成果と課題の記録について ○B訪問の授業について
6/28	授業実践 小3 国語 渡貫教諭 「まいごのかぎ」	○心情曲線を元に話し合うことで読み取りを深める工夫 ・心情曲線の変化とその理由を話し合うことで、主人公の気持ちをより深く想像することができた。話し合いで、心情を自分の言葉で表現することに課題が残った。
7/13	中3 保健体育 南雲教諭、阿部香養護教諭 「喫煙の害と健康」	○主体的な調べ学習により健康への考えを深める工夫 ・教師がキーワードを提示することで適した内容を調べることができた。より深く調べたり、問い直しの課題を解決したりするための時間を確保できなかった。
8/29	全⑤・授業研究会の報告 校②・B訪問指導案検討	○B訪問指導案の検討
9/7	授業実践 小1 国語 金井教諭 「やくそく」	○役割演技をして登場人物の気持ちを想像させる工夫 ・役割演技により、登場人物の気持ちを想像し、異なる意見を出し合い共有できた。考えの根拠を明確にすることに課題が残った。
9/26	全⑥・B訪問授業研究会について 校③・B訪問指導案検討	○B訪問授業研究会について ○B訪問指導案の検討
10/7	指導主事訪問B 小4 国語 星野教諭 「ごんぎつね」 	○課題設定を児童とともにやり、問いかけで深める工夫 ・単元の課題設定を児童とともにやっていったのがよかった。教師のゆさぶりの発問が効果的だった。さらに児童同士の深め合いがあるとよい。
	中1 数学 千明教諭 「データの活用」	○意見交流でデータの活用について考えを深める工夫 ・テーマ設定が生徒の興味関心を引き、既習事項を活用する内容だった。意見交流から、多様な考えを出すことに課題が残った。
10/17	全⑦・B訪問授業研究会について 校④・教育水準向上研究授業指導案検討	○B訪問授業研究会の行い方について ・次年度に向けて、班編制の工夫と考慮点 ○教育水準向上研究授業指導案検討

11/1	全⑧・教育水準向上研究授業指導案検討	○教育水準向上研究授業指導案検討
11/17	市教育水準向上研究 中2英語 高山教諭 「PROGRAM6 Live Life in True Harmony」 	○ルーブリックと思考ツールを用い、見通しをもった学習への取り組みと、視点を明確にした話合いの工夫 ・手立てにより、思考を視覚化し見通しをもった学習に繋げることができた。よりよくするためヒントカード、教師の助言、資料の提示、視点の提示等があるとよい。
	中3理科 阿部教諭 「エネルギーと仕事」	○実験データをもとに話し合いを深める工夫 ・仮説を立てたことで話し合いが活性化し、スプレッドシートを用いることで話し合いの時間を確保できた。深く考えるためには教師の問い返し力が大切である。
11/28	授業実践 小6 国語 小林教諭 「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」	○ロイロノートの共有機能を活用し考えを交流する工夫 ・考えを簡潔に表し、根拠と理由を示しながら交流することは有効であった。話し合いの視点の明確化や切り返しの発問があるとさらに話し合いが充実する。
12/12	全⑨・授業研究会の報告 ・紀要原稿の作成について	○ジャムボードの授業研究会報告と校内研修報告書作成について
12/15	授業実践 中2 美術 福島教諭 「美しくデザインされた文字」	○小グループで課題に取り組みせる工夫 ・ロイロノートを活用して分類したり収集したりという活動がデザインに反映されていた。意見交流の後にICTを使う方がより活発な活動になったと思われる。
適宜	紀要原稿の作成	
1/16	授業実践 小6 社会 井上教諭 「新しい日本、平和な日本へ」	○教師の切り返しによって、思考を深め広げる工夫 ・児童の発言やつぶやきに対して切り返すことで、思考の深まりや広がりが見られた。多様な考えを短時間に交流させる工夫がさらに必要である。
1/16	中1 国語 佐藤教諭 「それだけでいい」	○学習形態によって、考えを広げ深める工夫 ・個別から集団で話し合うことで考えに確信を得たり付け足したりする姿が見られた。多様な意見を引き出すために意図的な発問や問い返しが必要である。
1/23	全⑩・実践の振り返りとまとめ 班③・授業研究会の報告 ・次年度構想の検討	○今年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。 ○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。
2/24	全⑪・次年度の校内研修の方向性	○研修主題、副主題（案）作成

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5/16 (月)	保健に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法講習、アレルギー対応の仕方
6/13 (月)	メンター研修		・国語デジタル教科書の機能と操作方法
9/10 (土)	メンター研修		・よりよい運動会を目指して
毎月	服務規律研修	服務規律担当	・服務規律について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	田部井 由美子	教諭	小林 昌行
教頭	井口 智恵子	教諭	大河原 真奈美
教諭	金井 みち代	養護教諭	松原 恵
教諭	星野 智子	非常勤講師	松井 和則
教諭	井上 初枝	主任用務員	金子 陽子
教諭	渡 貫文子		